

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

有明地区におけるアサリ生息状況調査

県北広域本部水産課・宮崎 孝弘

【背景・目的・目標（指標）】

県内アサリの主要産地である熊本県有明海沿岸の漁場（荒尾～網田）では、漁獲量が非常に低位で推移しており、大きな問題となっている。そこで、漁業者が行うアサリ資源管理及び増殖に係る取組みを支援することを目的として、本調査により管内のアサリ生息状況及び生産量を正確に把握し、関係者へ情報提供を行った。なお、本課では荒尾市から玉名市に係る県北地域を主に指導した。

【普及の内容・特徴】

（１）アサリ生息状況調査

調査は、各地区の主要漁場においてそれぞれ数か所定点を設定し、現地の漁業協同組合、関係市町及び熊本県漁業協同組合連合会とともに 7 月（春期）と 10 月（秋期）の年 2 回、アサリの生息状況を調査した。また、各定点では 25cm×25cm の方形枠を用いて干潟の表層底泥を 2 回採取し、4 種の縦線篩を用いて㎡当たりのサイズ別個体密度*を計数した。

*5 分貝（殻幅 15mm）、4 分貝（同 12mm）、3 分貝（同 9mm）、2 分貝（同 6mm）

（２）生産量調査

アサリ生産量について毎月 1 回各漁業協同組合から聞き取り、過年の実績と比較した。

【成果・活用】

（１）アサリ生息状況調査

令和 7 年（2025 年）秋期における 2 分貝以上の 1 ㎡当たりの生息個体数は表 1 のとおりである。最も生息個体数が高かったのは高道の 1,649 個/㎡で、過去 10 年間で最大となった。全体的に見ると荒尾南部、牛水、長洲、鍋、高道及び大浜 I では、前年度を大きく上回り、過去 3 年間と比べても高い生息個体数となった。各漁協は調査結果をもとに、これらが漁獲に繋がるよう被覆網等の保護対策を行った。

（２）生産量調査

令和 7 年（2025 年）（暦年、12 月末現在）における熊本県有明海のアサリ生産量は、表 2 のとおり 14.4 トンで、前年を大きく下回った（R6：90.1 トン）。地域別に見ると、荒尾～熊本北部長洲地域（513 トン、前年 0 トン）、菊池川河口域（11.8 トン、前年比 1,694%）、白川河口域（511 トン、前年 0 トン）は前年を上回ったが、緑川河口域（1.5 トン、前年比 1.7%）は前年を下回った。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

表 1 荒尾・玉名管内アサリ生息状況調査結果比較（秋期調査）（2分貝以上の生息個体数/㎡）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
荒尾北部	392	627	86	86	5	8	2	81	5	0
荒尾中部	652	319	258	258	35	20	0	264	47	23
荒尾南部	166	173	83	83	23	1	8	6	0	32
牛水	141	201	100	100	33	4	88	195	143	269
長洲	1,409	333	178	178	11	4	28	281	2	847
鍋	414	95	21	21	43	53	96	175	475	792
高道	359	254	26	26	39	48	37	838	117	1,649
大浜Ⅰ	655	66	52	52	3	5	461	137	438	684
大浜Ⅱ	367	44	88	88	0	32	0	57	291	208
横島西	225	140	12	12	44	240	1	50	707	112
横島東	126	120	149	149	198	333	169	63	577	112

表 2 県北広域本部水産課管内の地域別アサリ生産量

地域名	漁協名	R6 漁獲量(kg)	R7 漁獲量(kg)	前年比 (R7/R6,%)
荒尾～熊本北部 長洲地域	荒尾	0	0	—
	熊本北部牛水	0	513	—
	熊本北部長洲	0	0	—
菊池川河口域	岱明鍋	0	0	—
	岱明高道	0	0	—
	滑石	696	11,788	1,693.7
	大浜	0	0	—
	横島	0	0	—
白川河口域	河内	0	511	—
	松尾	0	0	—
	小島	0	0	—
	沖新	0	0	—
緑川河口域	畠口	0	0	—
	海路口	9,342	0	0.0
	川口	56,231	627	1.1
	住吉	13,972	0	0.0
	網田	9,886	921	9.3
荒尾～熊本北部長洲地域		0	513	—
菊池川河口域		696	11,788	1,693.7
白川河口域		0	511	—
緑川河口域		89,431	1,547	1.7
熊本有明 合計		90,127	14,359	15.9

普及項目	加工、流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

ノリ共同乾燥施設整備への支援について

県北広域本部水産課・宮崎 孝弘

【背景・目的・目標（指標）】

本県におけるノリ共同乾燥（以下「共乾」という。）施設の整備は、平成 20 年（2008 年）に大浜漁業協同組合が水産庁補助を活用して 2 棟を整備したことに始まり、その後 2 地区（熊本北部、住吉）で民間企業の資金による整備が進んだ結果、現在は 3 地区で共乾が行われている（図 1）。

当課では、平成 26 年（2014 年）から管内漁業協同組合（以下「漁協」という）を対象に共乾施設導入シミュレーションを行い、その結果等に関する説明会を開催してきた。この取組みが功を奏し、平成 28 年（2016 年）以降、大浜地区で漁協により 1 棟、熊本北部地区で株式会社 ARC により 3 棟、住吉地区で株式会社伊藤海苔機械（以下「伊藤海苔機械」という。）により 2 棟が整備された。その結果、乾ノリの品質向上・安定生産、漁業者の所得向上や新規就業の促進にも大きく寄与している。

また、網田地区において共乾施設整備計画（令和 8 年（2026 年）稼働予定）が具体化したため、当課も地元自治体と連携して指導、助言を行い、課題の解決に取り組んだ。

【普及の内容・特徴】

- （１）住吉地区の共乾施設は、ノリ漁業者に機器を販売する伊藤海苔機械が、自ら共乾施設を整備するという取組みが特徴的であることから、同社の協力を得ながら、県内外の関係団体による視察に対応し、共乾施設の整備効果や運営状況等について広く情報発信することができた。
- （２）網田地区の施設整備においては、発生した用水が課題であったが、今後、他地区で共乾施設の整備を検討する際にも参考となることから、対応経過を整理した。

【成果・活用】

- （１）住吉地区について（図 2, 3）

当課が主催した視察では、令和 6 年度（2024 年度）の全国海区漁業調整委員会連合会事務局長会議で 40 名、令和 7 年度（2025 年度）の九州ブロック漁業士研修会勉強会で 50 名、大学生の卒論作成に係る視察で 2 名を受け入れる等、2 年間で県内外から 100 名を超える参加があった。この他ノリ商社や他県の漁連等、多数の団体が同施設を視察している。

視察では、施設内部に整然と設置されている最新機器を見学し、施設担当者から取組みに至った経緯や稼働時の状況について説明が行われた。また、施設利用者からは、乾燥作業から解放されて心身の負担が軽減されたことや、品質の良い乾海苔が製造できていることが紹介され、視察者からは驚きとともに共乾施設の整備を自県でも勧め

たいとの声も多く聞かれた。

(2) 網田地区について (図 4, 5)

共乾施設で使用する海水と真水については、既存の海水タンクや井戸を使用することとなったが、以前からこれらを使用している漁業者や地元住民等との調整や供給経路の検討が必要であった。このため、漁協や市の担当者と複数回の打ち合わせや現地確認を行い、取水場所や共乾への供給経路等を決定し、一定の方向性を整理することができた。

【達成度自己評価】

4 目標 (指標) はほぼ達成できた (76~100%)

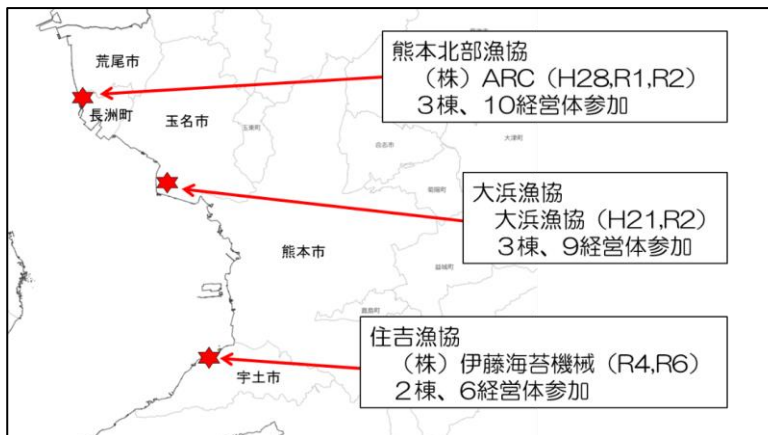


図 1 県内のノリ共乾施設



図 2 住吉地区の視察の様子



図 3 共乾施設内部を説明する設置者



図 4 網田地区共乾施設で使用する予定の
海水タンク



図 5 網田地区の共乾施設建設予定地

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

ノリ養殖の生産指導及び養殖状況調査

県北広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

本県の主要水産物であるノリは、令和 6 年度(2024 年度)の生産額が 227 億円で全国 3 位（出典：全国漁連ノリ事業推進協議会資料）となっており、漁場環境の変化が著しい中、ノリ養殖業における安定生産は、管内のみならず本県水産業の重要課題である。

そこで、管内のノリ生産者に適切な生産・指導を行うため、漁期初期のノリ採苗状況調査（芽付け検鏡）を行うとともに、ノリ養殖状況調査によるノリ生産者及び関係機関へ迅速な情報共有を実施した。

【普及の内容・特徴】

（１）芽付け検鏡・巡回指導（令和 7 年（2025 年）11 月 7 日～10 日）

ノリの芽付き状況を確認するため、熊本県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。）、熊本市及び水産研究センターと連携し、各漁協等で芽付け検鏡を実施した。また、各地域の芽付き状況を把握するとともに、生産者に対して現地で情報提供や指導・助言を行った。

（２）ノリ養殖状況調査（令和 7 年（2025 年）11 月 18 日～令和 8 年(2026 年)3 月 12 日）

県漁連、熊本市と合同で管内のノリ養殖場を巡回し、環境測定（水温、比重、プランクトン沈殿量）を行った。また、ノリ葉体を採集後、病害等の検鏡を実施し、その結果を調査当日にとりまとめ、管内漁協等へ速やかに情報提供した。

【成果・活用】

芽付け検鏡及び巡回指導では、漁協職員等と芽数のチェックをすることで、現場の検鏡精度の均一化・向上に貢献するとともに、その後の養殖指導に活用した。

ノリ養殖状況調査では、関係機関が協力して実施したことで、ノリの生長や病気等の情報、問題点の共有化ができ、より適切な指導ができた。また、調査結果は、「ノリ養殖速報」として管内漁協及び関係機関等へ調査当日に計 26 回情報提供を行った。なお、情報発信に当たっては、従来の FAX に加え、SNS を活用した海苔養殖業者グループでの共有も併用することで、より迅速に生産者へ情報

を届けることができた。

本年度は、昨年度に続き、高水温の影響により、採苗開始が過去最も遅い 11 月 6 日となった他、ベタ漁場のみで一斉撤去が行われる等、異例の養殖状況であった。そのため、養殖環境やノリの生育状況、病勢についての情報を速やかに関係者へ提供し、養殖業者が適切な養殖管理を行えるよう支援した。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

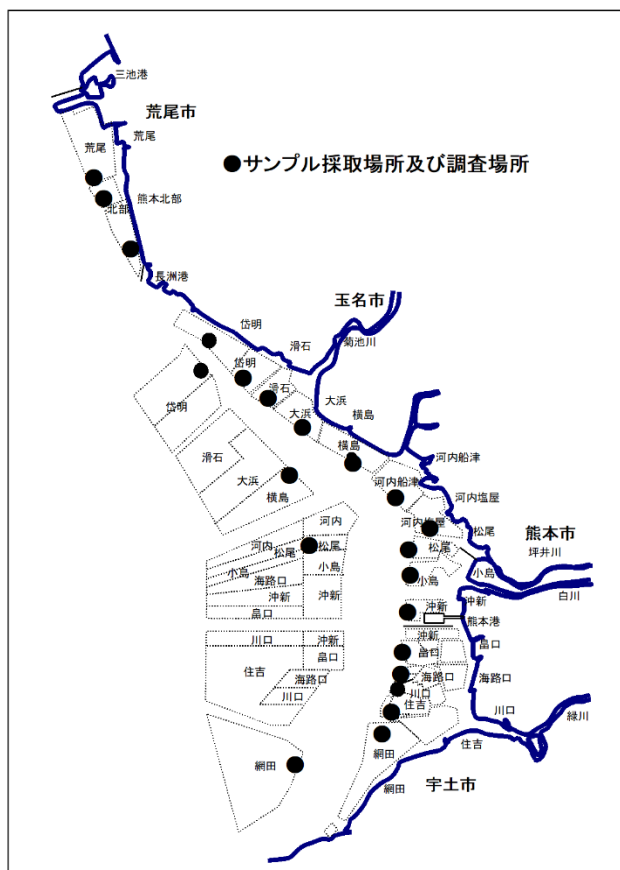


図 1 ノリ養殖漁場及び調査箇所



図 2 ノリサンプル採取



図 3 プランクトン採集



図 4 ノリ葉体検鏡観察



図 5 ノリ葉体サンプル

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	内水面

水産用医薬品の使用に係る巡回指導

県北広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

県北広域本部管内では、ヤマメ、ニジマス、ウナギ等の内水面魚種を中心とした陸上養殖が 20 軒ほど営まれており、魚病発生時には、水産用医薬品が適宜使用されている。

そこで、養殖水産動物に対する安全・安心を確保することを目的として、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、①未承認医薬品の使用禁止、②水産用医薬品の対象魚種や用法用量、使用禁止期間等の適正な使用について、管内養殖業者への巡回指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）実施概要

3 地区計 6 業者(3 魚種)について巡回指導を行った。その概要は下表のとおり。

なお、巡回指導には各地区を管轄する家畜保健衛生所の職員も同行した。

表 1 令和 7 年度（2025 年度）における巡回指導実施状況

地区	巡回日時	業者	同行者	養殖種
中央(上益城郡山都町)	7 月 31 日	1	—	ヤマメ、ニジマス
阿蘇(阿蘇市)	8 月 14 日	1	阿蘇家畜保健衛生所 1 名 県北広域本部水産課 1 名	ヤマメ、ニジマス
城北(山鹿市)	10 月 17 日	1	城北家畜保健衛生所 1 名	ヤマメ、ニジマス
城北(山鹿市)	10 月 22 日	1	城北家畜保健衛生所 1 名	ヤマメ、ニジマス
中央(熊本市)	3 月 5 日	1	水産振興課 1 人	ウナギ
中央(上益城郡甲佐町)	3 月 27 日	1	水産振興課 2 人	ウナギ

（２）医薬品の適正指導および経営状況の聞き取り

養殖業者に、①飼育魚種、尾数、②近年の魚病の発生状況、③水産用医薬品の使用・保管状況、④飼育魚の健康状態の確認、⑤経営状況の聞き取りを行った。

【成果・活用】

巡回した業者の中で、違法な水産用医薬品の使用等は確認されなかった。また、「水産用医薬品について」（農林水産省消費安全局発行）に従い、医薬品を使用する場合は

引き続き適正に使用するよう指導を行った。なお、多くの業者は抗生物質等の使用に頼らない養殖を営んでいた。

経営状況の聞き取りでは、昨年引き続き、餌料をはじめとした資材高騰が続いている他、ウナギ養殖においては、2年連続してシラスウナギが豊漁だったことにより、成鰻の販売価格に影響があるとのことであった。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 水産用医薬品保管状況の確認



図2 飼育魚の健康状態観察（ヤマメ）



図3 飼育魚の健康状態確認（ウナギ）



図4 飼育魚の健康状態確認（ニジマス）

普及項目	加工、流通
漁業種類等	ノリ養殖
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

有明海地区及び松尾地区の第3期浜の活力再生プランの策定 並びにノリ養殖網冷凍施設改築計画方針作成の指導・支援

県北広域本部水産課・中尾 和浩

【背景・目的・目標（指標）】

県では、平成25年度（2013年度）から国の施策に基づき、漁業地域の活性化を目的に、浜ごとの特性を活かした創意工夫により、漁業者自らが中心となり漁業者の所得向上を目指す「浜の活力再生プラン」（以下「浜プラン」という。）の策定を推進してきた。

令和7年度（2025年度）は、有明海地区第3期広域浜プラン及び松尾地区第3期浜プランの策定並びに、老朽化が進む網田地区ノリ養殖網冷凍施設の改築計画方針の作成に向け、漁業者及び漁協等の支援・指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（1）浜プラン等の策定の指導・支援

ア 有明海地区第3期広域浜プラン

熊本県有明海地区広域水産業再生委員会（事務局：熊本県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。））が主体となって策定する第3期広域浜プラン（令和8年度から5年間）について、令和7年（2025年）9月から令和8年（2026年）3月まで、県漁連に対し延べ10回の関係機関担当者会議を開催し、計画内容の整理及び原案作成に係る指導を行った。

イ 松尾地区第3期浜プラン

松尾地区地域水産業再生委員会（事務局：松尾漁業協同組合）が主体となって策定する第3期浜プラン（令和8年度から5年間）について、令和7年（2025年）10月から令和8年（2026年）3月まで、松尾漁業協同組合等に対し延べ11回の作成指導を行った。

（2）ノリ養殖網冷凍施設の改築計画方針の作成の指導・支援

網田漁業協同組合が事業主体となり、昭和50年度（1975年度）に宇土市網田地区に国庫補助事業（水産庁：沿岸漁業構造改善事業）を活用して整備されたノリ養殖網冷凍施設は、これまで建物や機械設備のメンテナンスにより長年運用されてきた。しかし、施設の老朽化が進行し、今後の安定的なノリ養殖経営を継続するためには、施設改築に向けた検討が必要となった。そこで、改築計画方針を作成するために、漁協が主体となり建築専門家（建築士）及び宇土市等関係機関との担当者会議が令和7年（2025年）8月から令和8年（2026年）3月までに4回開催された。また、当課からも、改築計画方針の作成について支援を行った。

【成果・活用】

（1）浜プラン等の策定の指導・支援

指導の結果、令和8年（2026年）3月に有明海地区広域浜プランは水産

庁の承認を受けた。また、松尾地区浜プランも水産庁の審査が完了した。今後、両地区の漁業者は、令和8年度（2026年度）から5年間、第3期浜プランに基づき、所得目標や生産目標の達成に向けて取り組んでいくことになるため、計画に位置づけられた取組みが円滑に実施されるよう、関係機関と連携して支援を行う。

（2）ノリ養殖網冷凍施設の改築計画方針の作成の指導・支援

網田漁業協同組合では、今回整理した改築計画方針を踏まえ、今後施設改築に必要な国予算の確保に向けた取組みを進める予定である。今後も事業化に向けた協議や関係機関との調整が円滑に進むよう、継続して指導・支援を行う。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図 1 県漁連及び関係機関との計画協議状況



図 2 松尾漁協及び関係機関との計画協議状況



図 3 網田漁協及び関係機関との計画方針協議状況

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	カキ
対象海域	熊本有明海

県北管内におけるカキ養殖取組み指導

県北広域本部水産課・直江 瑠美

【背景・目的・目標（指標）】

荒尾漁業協同組合（以下「荒尾漁協」という。）では令和 5 年（2023 年）9 月に区画漁業権を取得し、漁協の自営事業として、干潟を活用した支柱式カキ類養殖に取り組んでいる（図 1, 2）。また、荒尾市の支援により「養殖管理アプリ」を導入し、養殖管理の効率化を進めている。

一方で、より市場価値の高い生食用カキの出荷に向けた体制整備が課題となっている。

滑石漁業協同組合（以下「滑石漁協」という。）では、令和 7 年（2025 年）11 月からカキの試験養殖を開始しており、漁場特性に適応した養殖技術及び管理手法の確立が課題となっている（図 1）。

そこで、荒尾漁協においては生食用カキの出荷・販売体制の整備を、滑石漁協では養殖技術及び管理体制の構築を目標として指導を行った。

【普及の内容・特徴】

荒尾漁協では、生食用カキを出荷するため海域指定の取得に必要な調査の指導を行い、令和 6 年（2024 年）8 月には海域指定を取得できたことからカキ浄化施設の整備について関係機関と連携して指導を実施した。その結果、令和 7 年（2025 年）11 月下旬に浄化施設が完成し、浄化試験を実施したところカキの浄化状況に問題がないことを確認した。また、販売促進として、漁協直売所での PR チラシの作成（図 3）や令和 8 年（2026 年）2 月 21 日～22 日に開催された「食のみやこくまもと三つ星グルメフェス」への出店に向けた支援を行った。

滑石漁協では、養殖試験に必要な手続きや限られた人員で効率的に管理するための養殖方法及び管理体制等について指導を行った。

【成果・活用】

荒尾漁協では、浄化施設の整備により、令和 8 年（2026 年）1 月 30 日には、県北管内初となる生食用カキの販売することができた（図 4）。また、同年 1 月以降は、毎週 100kg 程度のマガキ（加熱用）を販売することができた（図 5）。今後は、令和 8 年（2026 年）6 月開業予定の道の駅「ウェルネスあらお」への生食用カキ出荷を計画している。

滑石漁協では、理事 1 名と組合員 1 名の計 2 名がカキ担当として月に 1～2 回の頻度で成長や生残率等についてモニタリングする体制を整備することができた（図 6, 7）。なお、試験養殖中のマガキについては、順調な成長が確認され、将来的には、区画漁業権の取得を計画している。

今後も、カキ類養殖が両漁協の安定的な収入源となるよう、養殖技術や管理体制及び販売体制の確立に向けて、引き続き指導・助言を行う。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）



図1 荒尾漁協及び滑石漁協の位置図



図2 カキ養殖場の様子（荒尾漁協）



図3 直売所販売チラシ（荒尾漁協）



図4 生食用カキ販売（荒尾漁協）



図5 販売したカキ（荒尾漁協）



図6 成長・生残モニタリング（滑石漁協）



図7 カキ養殖場の様子（滑石漁協）

普及項目	担い手
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

有明地区漁業士会による「漁業体験教室」の開催支援

県北広域本部水産課・直江 瑠美

【背景・目的・目標（指標）】

有明地区漁業士会（以下「漁業士会」という。）では、漁業・漁村地域を身近に感じてもらい、漁業への理解を深めてもらうことを目的として、児童を対象に平成10年（1998年）から令和元年（2019年）まで、地びき網漁業体験教室やノリ手すき体験教室を実施してきた。

令和4年度（2022年度）からは、小学校における「ノリ出前講座」を実施し、有明海の基幹産業であるノリ養殖業について児童の理解促進を図るとともに、漁業士会の活動や熊本県産ノリのおいしさをPRするため、当課は、同会の事務局として、これらの取り組みが円滑に実施されるよう開催を支援した。

【普及の内容・特徴】

（1）地びき網漁業体験教室（図1, 2, 3）

日 時：令和7年（2025年）6月7日（土）13時00分～16時30分

場 所：松原海水浴場（熊本県玉名市岱明町鍋）

参加者：長洲町少年野球、玉名町子供会、岱明少年野球、鍋小学校の児童・保護者
合計108名、漁業士会会員7名、事務局等12名

内 容：学習会では、有明海の自然環境や漁業についての理解を深めてもらうために、有明地区漁業士会副会長からノリの生産工程を説明し、持参したノリ網、伸子棒、ラッカサンなどの漁具を紹介した。また、熊本県産の「焼き海苔」を試食してもらうことで、熊本県産水産物への関心を高める契機となった。事務局からは、有明海の特徴や地びき網漁業を体験するにあたっての注意点等を説明した。

地びき網漁業体験では、地元の「地引網保存会」の協力を得て、児童や保護者、漁業士が一丸となり曳網した結果、大量のヒイラギ、チヌ、グチ、スズキ等が漁獲され、児童は喜んで漁獲物を手にしていた。地びき網漁業体験後は、漁業士が、地びき網で獲れた魚について名前当てクイズを交えながら説明し、漁獲物は、参加者が各自持ち帰った。最後に海浜清掃を行い、漁業や漁業環境への理解醸成を図った。

（2）ノリ出前講座「おいしいノリができるまで」（図1, 4, 5）

日 時：令和7年（2025年）9月4日（木）13時45分～14時30分

場 所：益城町立津森小学校

参加者：児童（4年生1クラス）21名、教員3名
（講師）漁業士会会員2名、事務局1名

内 容：講座では、漁業士が講師となり、小学校4年生を対象に「おいしいノリができるまで」をテーマに、ノリの生産工程や養殖に使用する漁具等について説明した。併せて、熊本県産の「焼のり」を全児童及び教員約130名に配布し、漁業士会活動や熊本県産海苔のPRを行った。

【成果・活用】

地びき網漁業体験教室では、参加した児童から「地元の海にたくさんの種類の魚がいることに驚いた」、「魚の名前当てクイズが楽しかった」といった声が聞かれ、地域の海や漁業への関心を高める機会となった。

また、ノリ出前講座は、1市町1小学校から講座の依頼を受けることができ、児童や教員に対し、漁業士会の活動や熊本県産ノリの魅力をPRすることができた。また、児童の質問に漁業士が丁寧に答えたことで、ノリ養殖業への理解が深まり、「将来はノリ養殖業者になりたい」という声が聞かれ、漁業への関心を高めることに繋がった。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

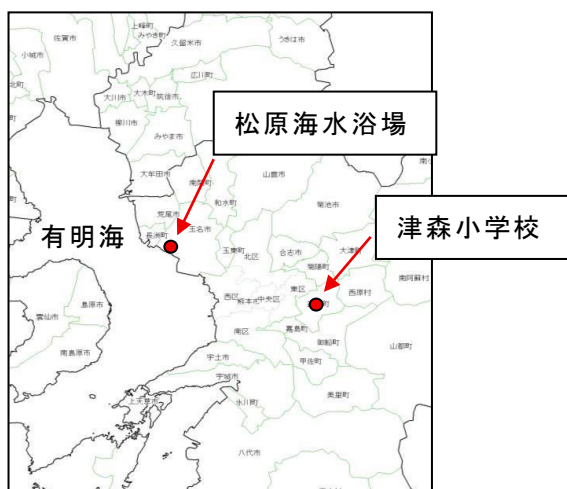


図1 位置図



図2 ノリに関する学習会



図3 地びき網漁業体験教室



図4 ノリ出前講座



図5 ノリ網を広げた様子

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

被覆網を活用したアサリ増殖方法の横展開

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

八代海の干潟漁場におけるアサリ資源は、令和2年7月豪雨の影響により大きく減少したが、漁業者による被覆網や囲い網の設置・管理により資源の回復に取り組んでいる。また、八代市の鏡町地区や八代地区で先行して実施された被覆網による増殖技術は、当課による指導により、現在、県南広域本部管内の各地区へ波及している。

令和7年度（2025年度）は、被覆網によるアサリの増殖を新たに始めた4地区において、アサリの生息状況調査を行い、継続的にアサリの増殖と漁獲が行うことができるように、漁場管理の方法について指導・助言を行った。

【普及の内容・特徴】

（1）氷川町竜北地区

竜北地区については、例年5月に数百kgの漁獲があるものの、漁獲量が少ないことが課題となっていた。このため、現地での生息状況調査に同行し、資源を増加させるための被覆網や稚貝捕集のための網袋の設置について助言を行った（図2）。

（2）芦北町芦北地区

芦北地区については、令和4年度（2022年度）から被覆網によるアサリの増殖を開始し、年間2t程度が漁獲されている。一方、過年度に設置した被覆網は付着物による網目の詰まりや破れなどで保護効果が低下しているため、生息状況調査を行うとともに、新たな被覆網への交換や新たな場所への設置について指導した。

（3）津奈木町津奈木・水俣市水俣地区

津奈木地区及び水俣地区については、令和6年度（2024年度）から被覆網によるアサリの増殖に取り組んでいるが、稚貝の密度が100個/㎡程度に止まっている。このため、水俣・芦北地域雇用創造協議会と連携し、被覆網の移設や網袋の設置について指導した。

【成果・活用】

（1）氷川町竜北地区

竜北地区では、8月の大雨の影響で囲い網は全損し、一部の被覆網や網袋が埋没していたため、少数のアサリしか確認されなかった。このため、埋没しにくい場所への被覆網や網袋の移設を助言し、年度内に実施された。

（2）芦北町芦北地区

芦北地区では、4月から令和8年（2026年）2月までに計4回の調査を行い、令和5年（2023年）以前に設置された被覆網では、網下に新たなアサリ稚貝が確認さ

れないことや、被覆網自体がカキなどの付着物に覆われ保護効果が低下している恐れがあるため、撤去するよう指導した。また、5月から8月にかけて被覆網の設置時期や場所の違いにより生息密度が異なることを示し、稚貝の分布を調査して、より保護効果が高い場所に被覆網を張るよう指導した（図3）。

（3）津奈木町津奈木・水俣市水俣地区

令和8年（2026年）3月までに、津奈木地区、水俣地区それぞれにおいて、新たな場所への被覆網の設置、稚貝捕集のための網袋の設置が行われた（図4、5）。今後、アサリの生息状況をモニタリングする予定である。

【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

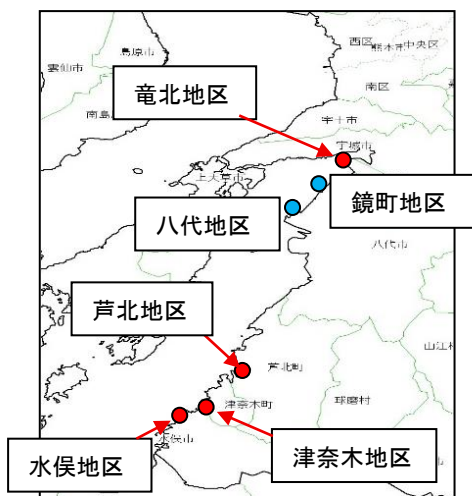


図1 位置図



図2 竜北地区での調査

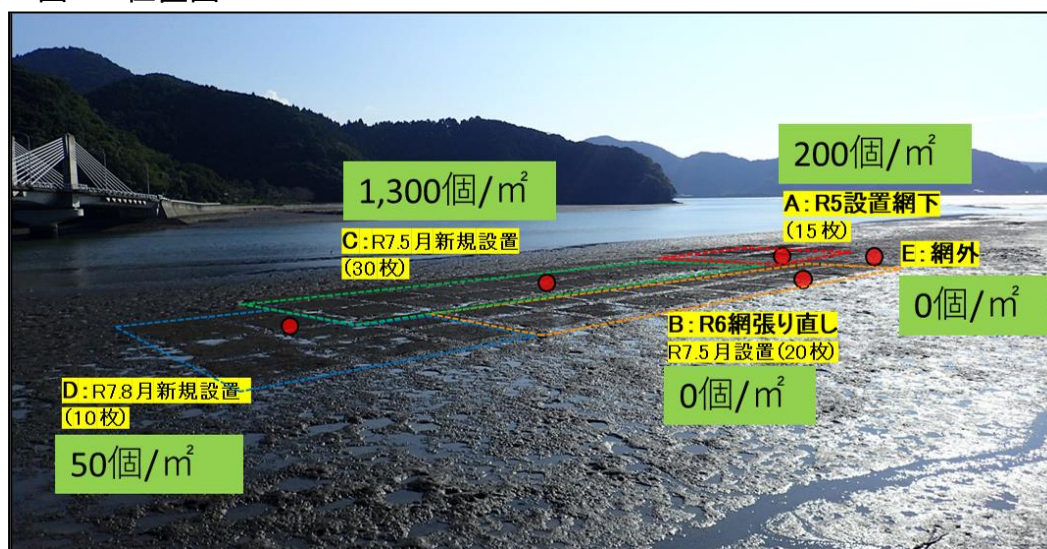


図3 芦北地区の被覆網とアサリの生息所状況（R7.11.6、赤丸は調査地点）



図4 津奈木地区での網袋設置



図5 水俣地区での被覆網設置

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

県南地区におけるマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、あさり資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により、漁業者の経営環境は厳しさを増している。このような中、県南地区の 5 漁業協同組合（三角町、鏡町、芦北町、津奈木、水俣市（以下「5 漁協」という。））地先では、漁家収益の向上を目的としてマガキの養殖に取り組んでいるが、夏場の高水温や食害等による生残率の減少が課題となっている。

そこで、当課では、マガキ養殖の安定化を図るため、関係漁協及び養殖業者に対して、養殖管理指導等を通じて、生産の安定化やバスケットを用いた新たな養殖管理方法の導入に向けた指導・助言を行った。また、令和 6 年度（2024 年度）から新たにマガキ養殖試験に取り組む昭和漁業協同組合（以下「昭和漁協」という。）に対しても、養殖技術指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（1）食害実態調査及び成育調査

令和 7 年（2025 年）6 月 2 日から 16 日にかけて、八代市鏡町地先の養殖筏にタイムラプスカメラ（図 2）を設置し、30 分間隔の撮影により、マガキの食害状況を調査した。

また、令和 7 年（2025 年）10 月には、5 漁協の各地先の養殖業者によるマガキ成育調査が行われ、当課では、生残個数及び殻付重量から重量別組成を算出し、過去の結果と比較した資料をまとめ、漁協、養殖業者及び関係市町へ情報提供した（図 3）。

（2）昭和漁協の養殖試験指導

昭和漁協では、令和 7 年（2025 年）2 月から約 12,000 個のマガキ種苗を用いた養殖試験を開始し、当課では、6 月、9 月及び令和 8 年（2026 年）2 月に現地確認を行い、サイズの測定方法等について指導を行った。

【成果・活用】

（1）食害実態調査及び成育調査結果の共有・指導

タイムラプスカメラで撮影された画像には、クロダイやボラ、コショウダイの姿が確認でき、特にクロダイがマガキをついばむ様子が写っていた（図 4）。撮影された画像は令和 7 年（2025 年）6 月に開催された「熊本県カキ類養殖生産者協議会」の養殖専門部会において養殖業者へ共有し、食害対策の必要性について注意喚起を行った。

成育調査では、令和 7 年度（2025 年度）の生産量は概ね例年並みと推定され、調査結果は、各漁協の今漁期の生産見通しの把握や出荷計画の検討に活用された。

(2) 昭和漁協の養殖試験指導

令和7年（2025年）2月に殻高約10mmで導入した種苗は、同年6月に約40mm、令和8年（2026年）2月に約60mmまで成長し、導入から約1年で出荷サイズに達することがわかった（図5）。また、種苗導入時の生残率は、約6割と良好であった。令和7年度（2025年度）は前年度より3か月程度早く種苗を導入し、より大型サイズのマガキ生産に取り組むこととしており、出荷に向けて、引き続き、指導を行うこととしている。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

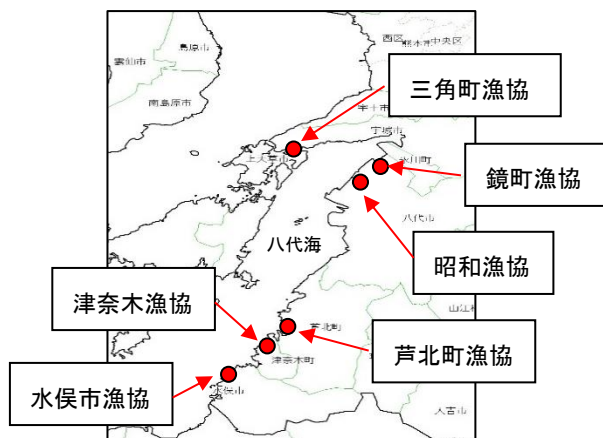


図1 位置図



図2 タイムラプスカメラ

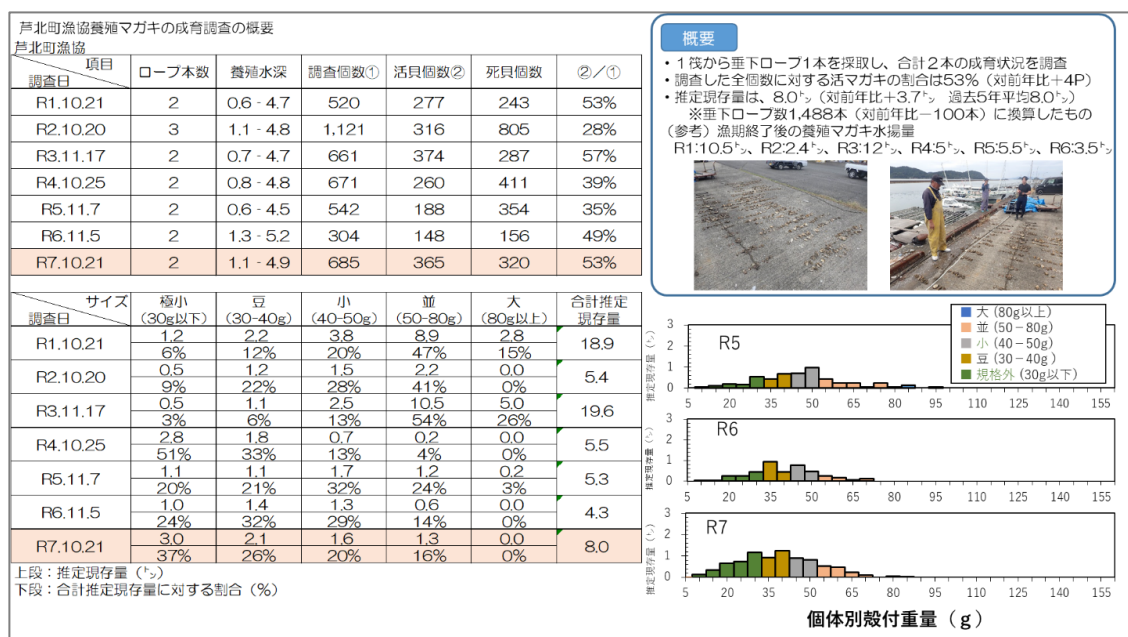


図3 マガキの生育調査の概要（芦北町）



図4 養殖筏にて撮影されたクロダイ (R7. 6. 13)



図5 昭和漁協の養殖試験で生産されたマガキ

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	シカメガキ
対象海域	八代海

県南地区におけるクマモト・オイスター養殖指導及び飼育試験について 県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

芦北町地先のクマモト・オイスター（標準和名：シカメガキ）については、夏場の高温期における大量へい死が課題となっている。これまで温湯処理（貝を40℃の温水に1時間浸漬）による対策を検討したものの、温湯処理のみではへい死を十分に抑制することは困難と判断された。一方、他地区ではバスケットを用いた干出飼育により高い生残率が報告されていることから、令和5年度（2023年度）から干潟での干出飼育による養殖試験を実施している。

令和6年度（2024年度）の干潟飼育試験では、地盤高100cm及び150cmの高さに飼育カゴを垂下することで、6月中旬までの生残率が向上したが、7月に大量死が発生した。そこで、今年度は飼育カゴをより高く設置し、干出時間を長くすることで生残率の向上を目指した。

【普及の内容・特徴】

昨年度の試験で最も生残率の高かった地盤高150cmへの垂下に加え、200cm及び250cmへの垂下区を設定し、干出時間の違いが生残率に及ぼす影響を検証した。

また、3月及び5月に高さを50cm上げる試験区を設定し、時期により干出時間を調整する手法の有効性について検討した。図2のとおり、計7試験区を設定して生残率の推移を調査するとともに、試験区①、②及び③についてはサイズの測定を行った。

【成果・活用】

試験は令和6年（2024年）12月から開始した。7試験区のうち、試験区②、③、⑤及び⑦（地盤高150cm、200cm及び試験期間中に200cmへ変更した区）では、6月から徐々に生残率が低下し始め、11月にはほぼ0%となった。一方で、試験区①、④及び⑥（地盤高250cm及び試験期間中に250cmに変更した区）では、10月まで生残率80%以上を維持することができた（図3）。

しかし、生残率が高かった試験区においても、11月以降に生残率が急低下し、12月下旬で生残率30%未満に落ち込んだ。この生残率低下の原因は不明である。

試験区①、②及び③の成長について、令和7年（2025年）6月時点では、最も干出時間が長い個体ほど大型化する傾向が認められた。しかし、6月以降は、大きいサイズの貝からへい死が発生し、10月時点では、試験区間のサイズ差はほとんど認められなかった。（図4）

今後は、生残率の高かった地盤高250cmへの垂下を中心に再度検証を行う。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）



図1 位置図

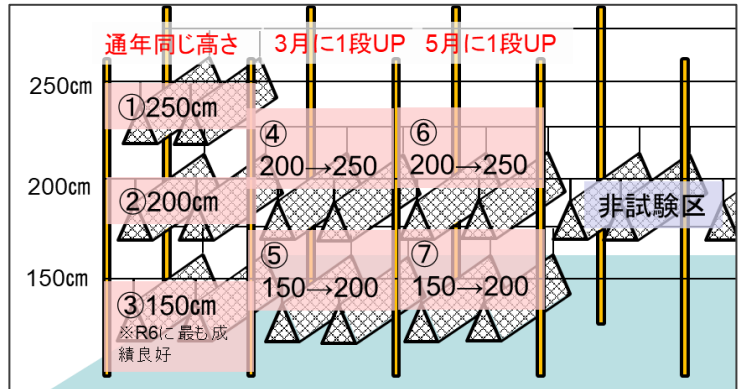


図2 干潟飼育試験のイメージ

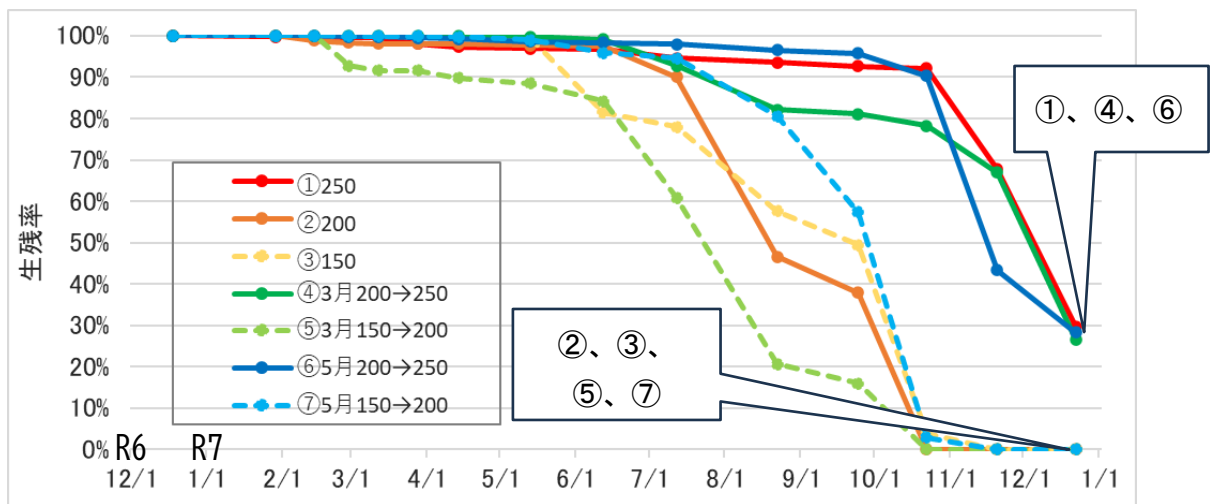


図3 干潟飼育による生残率の推移（凡例の数字は垂下高さ（cm））

2025.6.12時点					2025.10.22時点				
試験区	殻高(mm)	殻長(mm)	殻幅(mm)	重量(g)	試験区	殻高(mm)	殻長(mm)	殻幅(mm)	重量(g)
①250cm	33.42	21.31	11.12	2.46	①250cm	40.67	23.51	10.46	5.04
②200cm	40.52	26.18	10.8	4.23	②200cm	40.97	24.16	12.07	5.69
③150cm	42.05	26.1	16.23	5.08	③150cm	41.32	24.65	12.16	6.35

図4 干潟飼育による貝の成長（各試験区 30 個の平均値）



図5 干潟飼育試験の状況



図6 飼育貝の状況
(2025. 8. 22 試験区③150 cm)

普及項目	増殖・流通
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	シジミ
対象海域	八代海

砂川産ヤマトシジミの資源管理指導及び流通支援

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

宇城市内を流れ八代海湾奥部に注ぐ砂川の河口域には、熊本県内では貴重で非常に大型になるヤマトシジミが生息している（図 1, 2）。漁場を管理する松橋小川漁業協同組合（以下「漁協という。」）では、潮干狩りのための漁場の一般開放を行っており、春から秋にかけてシジミを求める多くの人で賑わっている。

当課では、平成 20 年代から、資源保護のため、漁業者とヤマトシジミの生息状況調査を実施するとともに、食害対策について指導を行ってきた。しかし、現在はシジミの販路が不足している点と知名度が低いことが課題となっている。

そこで、販路の開拓及び知名度を向上するため、生息状況及び肥満度の調査によりヤマトシジミの最も販売に適した時期（旬）を把握するとともに、漁協による市場出荷や砂川産ヤマトシジミの PR 活動の支援を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）市場流通や販売 PR 等に対する支援

八代共同魚市場（以下「市場」という。）への出荷に向け、令和 6 年度（2024 年度）から継続している市場と漁協との協議を仲介した（図 3）。また、砂川産ヤマトシジミの認知度向上を図るため、PR パンフレットやシールの作成について助言した。

さらに、第 8 回全国シジミ・シンポジウム（令和 7 年（2025 年）12 月）や全国青年・女性漁業者交流大会（令和 8 年（2026 年）3 月）への出場を支援し、他産地の取組みに関する情報収集と併せて砂川産ヤマトシジミの PR を行った。

（２）生息状況・肥満度調査

漁業者による自主的な調査実施を促すため、生息状況調査等の手法を指導した（図 4）。また、肥満度を定期的に測定し、産卵時期や最も身入りの良い時期（旬）の推定を行った。

【成果・活用】

（１）市場流通や販売 PR に対する支援

市場との協議の結果、令和 7 年（2025 年）4 月から、漁協で初めての取組みとなる市場への定期出荷が開始された。また、6 月からはサイズ選別機を導入し、殻幅 14 mm 以上の出荷に取り組んだ。現時点では、漁協の希望単価と全国相場との乖離により少量の出荷に留まっているが、PR 資材を活用し知名度向上につなげた（図 5）。

（２）生息状況・肥満度調査

漁協と連携した資源管理や食害対策を地道に続けた結果、大型のシジミが多数確

認められ、シジミ資源の増加や大型化につながった。

肥満度調査では、6月まで肥満度が上昇したが、7月以降低下しており、4月から6月が最も身入りが良く販売PRに適した時期（旬）であることが示唆された（図6）。また、漁協が自主的に7月から8月を禁漁期間としていることの裏付けを行うことができた。今後は、複数年に渡り調査を継続し、資源管理や出荷の判断、販売時のPRに活用していく。

【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 位置図



図2 砂川産ヤマトシジミ



図3 市場と松橋小川漁協との協議



図4 漁業者による生息状況調査



図5 店頭に並ぶ砂川産ヤマトシジミとPRラベル



図6 肥満度の推移

※肥満度＝（軟体部重量×100/（殻長×殻高×殻幅））×1,000

普及項目	担い手
漁業種類等	—
対象魚類	—
対象海域	八代海

不知火地区漁業士会活動支援

県南広域本部水産課・向井 宏比古

【背景・目的・目標（指標）】

不知火地区漁業士会は、担い手の育成、魚食普及及び漁業所得の向上を目的に、漁業体験教室及び地域水産物の PR 活動等を行っている。当課では、漁業士会の事務局として漁業所得の向上や漁業後継者の育成並びに地域水産業の振興を目的に、漁業士会活動の支援を行った。

【普及の内容・特徴】

不知火地区における主要水産物の一つである「あさり」について、次世代を担う子供たちの興味・関心を醸成することを目的に、同漁業士会が八代市内の児童やその保護者を対象にあさり採貝漁業体験（潮干狩り）や学習会を開催した。

当課は、将来の担い手確保となる子供たちに水産業に興味を持ってもらえるように側面支援を行った。

表 1 令和 7 年度（2025 年度）取組概要

活動名	日時・場所	実施内容	対象者
あさり採貝漁業体験教室	3 月 1 日 八代市	あさり採貝漁業体験、 学習会	八代市内の小学生及び 保護者 26 人

【成果・活用】

あさり採貝漁業体験では、漁業士が子供たちにあさりの獲り方を教えるとともに、資源保護のために行うユリ目選別について、実践しながら紹介した。

また、学習会では、漁業士 2 名がスライドを用いて、被覆網や囲い網を活用したあさり資源を保護・育成する「育てる漁業」の重要性やブランド化への取組みを重点的に紹介した。

さらに、漁業士が普段操業している刺網漁業について、実際に使用している網を会場に持ち込み、子供たちに広げてみせて魚が漁獲される仕組みを説明する等、漁業への理解醸成、普及啓発を図った。

事後に実施したアンケートでは、漁業に対し「大変そう」という印象を抱きつつも、半数近くが「かっこいい」「懂れる」と回答した。プロの技術や熱意を直接伝えることで、漁業に対する魅力を波及させ、将来の担い手候補となる子どもたちに肯定的な職業イメージを醸成することができた。

【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 開会の様子



図2 あさり採貝漁業体験の様子



図3 漁業士による参加者へのアドバイス



図4 ユリ目による選別状況



図5 学習会の様子（あさり採貝漁業）



図6 学習会の様子（刺し網）

漁業体験教室 アンケート

本日は、漁業体験教室（アサリ採貝）にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後のより良い運営のため、率直なご感想をお聞かせいただけますと幸いです

アンケート

1. 参加者について
 今回の参加人数を教えてください。
 大人（ / ）名 / 小学生（ / 名 3 学年）

2. 体験の内容について
 今日の体験はお子様にとって楽しかったですか？
☒大変楽しかった ☐楽しかった ☐普通 ☐あまり楽しなかった

特にお子様が興味を示した（または夢中になっていた）のはどの体験ですか？
☒あさり採り

スタッフのサポートや安全への配慮は十分でしたか？
☒とても安心できた ☐安心できた ☐普通
☐もう少し配慮が欲しかった（理由： ）

3. 今後の活動の参考に
 この体験を通じて、お子様の「魚」や「海」に対する関心は変わりましたか？
☒とても興味を持った ☐少し興味を持った ☐あまり変わらない

「漁師」という職業について、印象は変わりましたか？
☒かっこいい・憧れる ☐大変そう ☐身近に感じた ☐特に印象なし

またこのような体験教室があれば、参加したいと思いますか？
☒ぜひまた参加したい ☐機会があれば参加したい ☐考え中

今回のようなイベントがあれば、また参加したいですか？
☒ぜひ参加したい ☐機会があれば参加したい ☐あまり参加したくない

4. ご意見・ご感想
 今回の体験で楽しかった点や、逆に改善してほしい点があればご自由にお書きください。
 漁師さんへのアサリ話を聞いてとても勉強になりました。あさり採りの話を聞いてにぎやかな体験だと感じました。

図7 アンケート結果（抜粋）

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	八代海、内水面

水産用医薬品の使用に係る巡回指導

県南広域本部水産課・向井 宏比古

【背景・目的・目標（指標）】

食の安心安全への関心の高まりとともに、抗菌剤が効かない薬剤耐性菌への対策が国際的な課題となっている。そこで、管内の養殖業者に対して、水産用医薬品を関係法令に従い適正に使用されているか養殖現場において確認及び指導を実施し、養殖水産動物に対するさらなる安全・安心を確保することを目的とした。

【普及の内容・特徴】

（１）巡回指導の実施日及び場所（表１）

表１ 巡回指導の実施状況

業者	実施日	場所	対象魚種
①	令和８年（２０２６年）１月９日	八代市	ニジマス
②	令和８年（２０２６年）３月２３日	人吉市	ニジマス
③	令和８年（２０２６年）３月２５日	球磨郡相良村	アユ
④	令和８年（２０２６年）３月２６日	球磨郡五木村	ヤマメ、ウナギ、ニジマス

（２）指導の方法

４地区４業者に対して、養殖水産動物の種類、飼育尾数、種苗導入状況、これまでに発生した疾病や使用した水産用医薬品等について聞き取りを実施し、併せて医薬品の保管状況等を確認した。

【成果・活用】

巡回指導により、水産用医薬品を常備している１業者については、所持していたパンフレットが旧版であったため、最新版を配付した。また、医薬品の常備はないが使用実績のある１業者については、適正使用についての指導を行った。

一方、医薬品の常備や使用実績がない業者については、パンフレット等の関係資料を配布した上で、魚病発生時の相談先や水産用医薬品の管理方法、水産用医薬品管理簿の記載方法、薬剤耐性菌のリスク管理について説明した。

併せて、水産用抗菌剤の購入には県が交付する「使用指導書」が必要となる旨を説明した。後日、水産用抗菌剤の購入に係る申請があったため、申請に係る指導を行い、同指導書を交付した。

【達成度自己評価】

４ 目標（指標）はほぼ達成できた（７６～１００％）



図 1 業者①の養殖場の確認



図 2 指導状況



図 3 業者②の養殖場の確認



図 4 水産用医薬品保管予定場所



図 5 業者③の養殖場の確認



図 6 水産用医薬品保管状況



図 7 業者④の養殖場の確認



図 8 水産用医薬品保管予定場所

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	八代海

ノリ養殖指導

県南広域本部水産課・向井宏比古

【背景・目的・目標（指標）】

八代海のノリ養殖は、生産期の高水温化、色落ちの早期発生等により、令和 5 年以降は漁獲がなく、生産不振が続いている。

そのため、八代海におけるノリの安定的な養殖生産を目的として、生産初期の採苗指導や海況養殖状況調査を行い、養殖業者に情報提供を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）カキ殻熟度検査（令和 7 年(2025 年)11 月）

内容：カキ殻胞子の成熟状態を確認し、採苗のタイミングや水槽管理に関する技術指導を実施した。

（２）採苗指導（令和 7 年(2025 年)11 月）

内容：採苗中の芽数や芽いたみ等の情報提供及び養殖指導を行った。

（３）養殖状況調査令（令和 7 年(2025 年)11 月～令和 8 年（2026 年）2 月）

内容：宇城市三角町里浦地先（図 1）で、原則週 1 回、漁場環境調査（水温、比重等）、ノリ葉長計測及び養殖指導を行った。

【成果・活用】

表 1 のとおり、養殖状況等の調査を実施した。

表 1 養殖状況等調査の実施状況

	(1) カキ殻 熟度検査	(2) 採苗調査			(3) 養殖状況調査									
		1 回	2 回	3 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回
日付	11/5	11/7	11/8	11/9	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	1/7	1/14	1/21	1/28	2/4
葉長 mm	－	－	－	－	0.4	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	1.5	2.0	2.0	4.0

今年度は、漁期中の降水量（三角観測所）が、平年比で 11 月は 38%、12 月は 57%、1 月は 23%と記録的な少雨であった。また、漁期始めの 11～12 月に珪藻赤潮（*Eucampia* 属）が発生した。これらの状況から、漁場の栄養塩は、ノリの生長に必要な期待値（窒素量で 7ug・at/L）を大きく下回っており（図 2）、ノリ葉体への栄養障害が発生するなど、生長が著しく阻害され生産には至らなかった（図 3, 4）。

また、当課では、ノリの生産不調を踏まえ、栄養塩の供給が期待される河口周辺の塩

分測定を行い、既存の区画漁業権漁場内における養殖適地の検討を併せて実施した（図2, 5）。調査結果については、今後、漁業者と種場やノリ網展開場所の検討のために、活用する予定である。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）

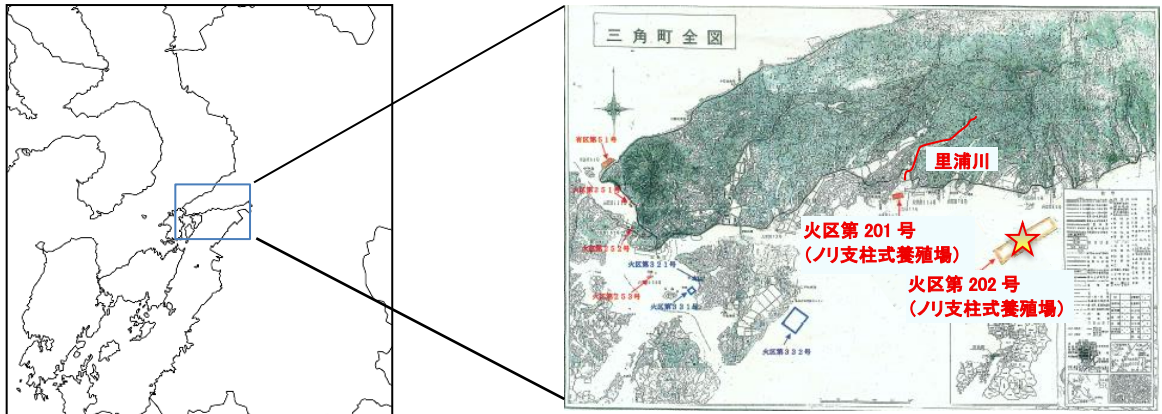


図1 養殖状況調査定点図（☆地点）

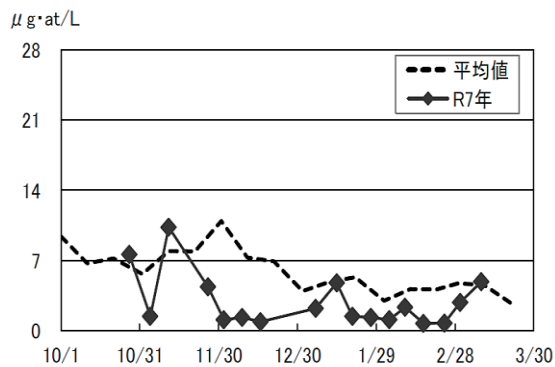


図2 栄養塩（窒素量）の推移（三角地区）
（出典：熊本県水産研究センター：ノリ漁場栄養塩情報）

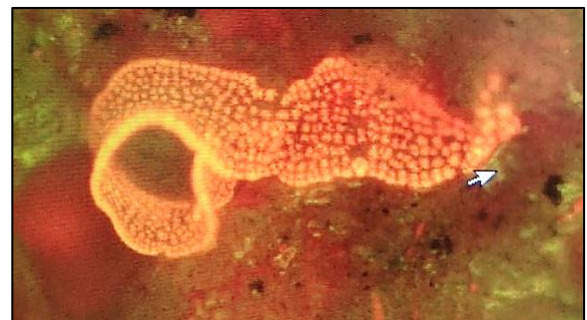


図3 栄養障害を受けた葉体の状況
（12月24日：採苗後7週目）



図4 ノリ網の状況
（12月24日：採苗後7週目）

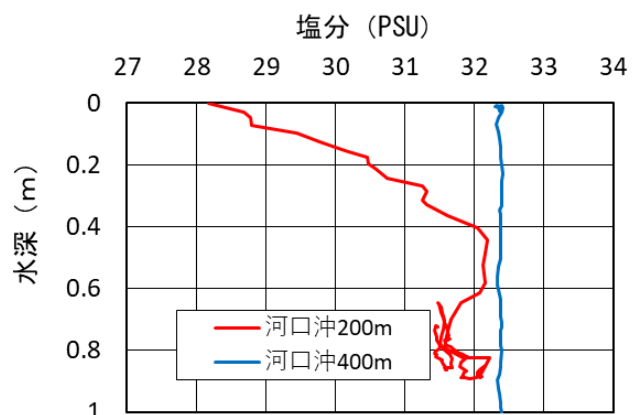


図5 里浦川河口沖 200m及び 400m
地点の塩分の鉛直分布

普及項目	増殖・養殖
漁業種類等	採藻業・養殖業
対象魚類	ヒジキ・ヒトエグサ
対象海域	八代海

芦北町地先における海藻増養殖の普及

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

葦北郡芦北町地先（図 1）においては、春季に一部の漁業者がヒジキを収穫しているが、令和 2 年 7 月豪雨以降、生育範囲が減少し、収量も減っているとの情報が寄せられた。

これを受けて、ヒジキ漁業を持続可能なものとするため、勉強会等を通じた増殖指導を行った。併せて、新たな養殖種の導入による漁業者の所得向上につなげるため、ヒトエグサ養殖を紹介し、先進地である天草地域の視察を企画、実施することとした。

【普及の内容・特徴】

令和 7 年（2025 年）7 月、ヒジキの収穫を行う漁業者に対して、水産研究センターが作成した「ヒジキ資源・品質管理マニュアル」（平成 25 年（2013 年）3 月作成、図 2）を配付し、ヒジキの増殖方法を考慮した収穫の仕方や、品質の見分け方を説明した（図 3）。

同年 12 月には、ヒジキの増殖方法及びヒトエグサの養殖方法に関する勉強会を開催し、改めてヒジキの収穫の仕方や、漁業者が自ら取り組めるヒジキの増殖方法について説明した。また、ヒトエグサ養殖の概要や必要となる資機材について紹介した（図 4）。なお、ヒトエグサ養殖については、漁業者から「実際の養殖現場を見てみないとイメージが湧かない」との声があったため、令和 8 年（2026 年）2 月に、漁業者や芦北町の職員とともに、養殖先進地である苓北町のヒトエグサ養殖場及び加工場（図 5）、天草市五和町のヒトエグサ養殖場（図 6）の視察について、調整を行い、現地の漁業者との意見交換を行った。

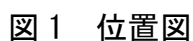
【成果・活用】

ヒジキの勉強会においては、漁業者から「これまで刈り取り時に一定の長さの根を残す意識はなかったので、実践したい」との声があった。

ヒトエグサの養殖場及び加工場の視察においては、加工機器や製品にするまでの流れ、養殖網の高さ調整等について、漁業者間で具体的な意見交換が行われた。

今後は、芦北町地先において、漁業者と連携し、基板を用いたヒジキの増殖及びヒトエグサ養殖の適地探索を行うこととしている。

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



ヒジキの資源・品質管理マニュアル

ヒジキは、コンブやワカメと同じ褐藻類で、古くから惣菜等に加工されるなど食の日本人にとって重要な食料のひとつです。また、水産物資源として、カルシウムなどのミネラルが豊富に含まれることから、健康食品として親しまれることがあります。

日本産では、北海道のトマチン（乾燥海藻）のヒジキが最も多くていますが、その約8割は韓国から輸入です。残りの約2割が国産ですが、その生産量は1トン1程度に過ぎないのですが（図1）、輸入品に比べて品質が劣る（食味が落ちる）と、消費者が感じています。

日本産の天然ヒジキは、北海道の釧路湾に自生しています。長崎、兵庫、三重ではこれらを対象とした漁業が盛んで、産地ヒジキの約8割を占めています。

熊本県内でも、年間約300トン（乾燥前の湿った状態で約8割）のヒジキが漁獲されています（図2）。しかし、これを収穫できる場所は限られており、今後、安定的に漁獲を確保する必要があると考えられます。また、釧路では漁業による漁獲も増加しましたが、産地間や産地と流通（九州産地）間の品質の差により価格が変動しますので、収入面においても不安定であると推察されます。

これらは、ヒジキを資源とした漁業に課せられる管理によって、大きな不安材料となります。漁業者が安心してヒジキを漁業を続けるためには、次のような課題が生まれます。みんあ〜んとして取り組むことが大切です。

① 安定的な漁獲量を確保するため、ヒジキの漁り方・取り出し方を決めて資源管理に取り組むこと。

② 価格を高く安定させるため、高品質な乾燥ヒジキを生産する体制を整えること。

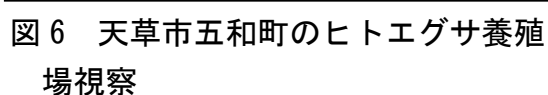
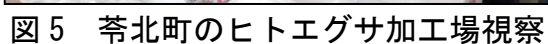
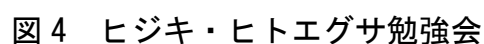
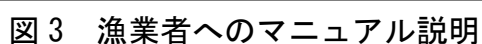
今後、高品質なヒジキが確保し、漁業経営の安定化につながることを願い、水産研究センターでは、漁業者の皆様がこれらに取り組む際に参考となる手引書を作成しました。本手引書がそのための一助となれば幸いです。

平成25年5月

熊本県水産研究センター

- 1 -

図2 ヒジキ資源・品質管理マニュアル



普及項目	増殖
漁業種類等	漁船漁業、採介藻
対象魚類	海藻類
対象海域	八代海

八代市二見地先における藻場造成試験

県南広域本部水産課・香崎 修

【背景・目的・目標（指標）】

藻場は「海のゆりかご」と呼ばれ、魚介類の産卵場所及び稚仔漁の生育場所として重要な役割を果たしており、近年の漁獲量低迷等を背景に、漁業者の藻場造成に対する関心は高まっている。八代市二見地先では、昭和時代に多くの藻場が消失し、わずかに残っていたガラモ場についても、平成12年（2000年）の調査時点で消滅が確認されている。このような状況から、藻場の回復には人為的な取り組みが必要と考えられるため、人工採苗したワカメを現地へ移植し、継続して生育状況について調査を行った。

【普及の内容・特徴】

地元漁業者との普及啓発打合せ及び現地試験等を表1のとおり実施した。

表1 作業履歴等

No.	年月日	実施内容	場所	同行・同席者等
1	2025年1月29日	試験打合せ	二見漁協	組合長他1名
2	2025年2月12日	試験打合せ及び現地確認	二見漁協地先	組合長他3名
3	2025年2月25日	人工種苗生育状況確認	水産研究センター	県2名
4	2025年3月2日	現地踏査	二見漁協地先	組合長
5	2025年3月4日	人工種苗移植作業(第1回)	二見漁協地先	—
6	2025年3月17日	試験打合せ	二見漁協	組合長他1名
7	2025年3月18日	生育状況モニタリング及び人工種苗移植作業(第2回)	二見漁協地先	組合長、八代市職員1名、民間業者1名
8	2025年4月30日	生育状況モニタリング	二見漁協地先	組合長
9	2025年5月27日	生育状況モニタリング	二見漁協地先	組合長、県1名

試験の実施に当たっては、将来的に漁業者自らが取り組めるよう、可能な限り簡易な方法となるよう留意した。使用した種苗は、水産研究センターにおいて、令和6年（2024年）10月1日に配偶体から人工採苗・育成したワカメ種苗を用いた。令和7年（2025年）3月4日に、10～25cm程度まで成長した種苗を上天草市から運搬し、同日中に二見地先へ移植した。移植に当たっては、φ12mm 綿ロープ（約3m）にワカメ10株を取り付け、ワイヤーで固定したものを作製し、波浪条件の異なる2区画にそれぞれ1本ずつ設置した。

【成果・活用】

設置1ヵ月後の観察では、移植した20株のうち3株が残存しており、葉長は21～42cm

まで伸長していた。また、このうち1株では、メカブが出来ていた。一方、2ヵ月後の観察時には、周囲の天然ワカメも含め枯死していたことから試験を終了した。残存数が少なかった要因として、3月後半にあった時化の影響や固定方法の問題が考えられ、移植方法に課題を残した。しかしながら、移植した個体で成熟が確認されたことから、人工種苗の移植による藻場の再生産の可能性が示唆された。

また、5月の調査では、固定用丸環やロープ類にイカ類の卵が産み付けられており、藻場造成の取組み自体が産卵基質の提供に繋がると期待できる。

さらに、周囲の天然群を含め、魚類による食害と思われるせん断面が一部観察された。このため、次シーズンは食害による影響の有無を調べることを主眼として試験を継続することとする。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）



図1 現地調査（3月2日）



図2 種苗のロープ固定状況（3月4日）



図3 設置状況（3月18日）



図4 現地観察・協議（3月18日）



図5 成長・成熟状況（4月30日）



図6 ロープ等に産み付けられたイカ類卵塊
（5月27日）

普及項目	担い手
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	八代海

魚類養殖体験教室による担い手確保の取組み

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

天草地区では、水産業が地域の基幹産業であるが、他地区と同様に担い手不足が課題となっている。このため、天草地区漁業士会では、将来の担い手確保に向け、地元高校生に対し、卒業後の就職先の一つとして、地域の水産業に関心を持ってもらうことを目的に、現役の魚類養殖業者による職業講話や養殖現場での漁業体験を通じて、水産業の仕事内容や魅力を直接伝え、地元就業への意識啓発を図ることとしている。

今年度は、魚類養殖体験教室に参加した生徒のうち、50%以上が水産業への就職について関心を持つことを目標とし、当課は漁業士会事務局として、実施内容の企画・調整や関係機関との連絡調整を行うとともに、漁業士会の活動が円滑に実施されるよう助言・指導を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）熊本県立天草拓心高校マリン校舎生徒を対象とした魚類体験教室

日 時：令和 7 年（2025 年）9 月 25 日

場 所：天草市牛深地先の魚類養殖場及び MOLIMON LAND 牛深

参加者：熊本県立天草拓心高校マリン校舎 2 年生 5 名、教諭 2 名、

天草地区漁業士 2 名、天草広域本部水産課 1 名

内 容：「MOLIMON LAND 牛深」において、漁業士による職業講話を実施した後、魚類養殖場へ移動し、漁業士の指導の下、出荷及び給餌作業を体験した。また、体験教室終了後には、水産業への就職に関する意識の変化を確認するため、参加生徒を対象にアンケート調査を行った。

（２）熊本県立天草高校倉岳校生徒を対象とした魚類体験教室

日 時：令和 7 年（2025 年）10 月 8 日

場 所：天草市倉岳町地先の魚類養殖場及び熊本県海水養殖漁業協同組合栖本事業所

参加者：熊本県立天草高校倉岳校 1 年生 9 名、教諭 4 名、天草地区漁業士 3 名

熊本県海水養殖組合職員 2 名、天草広域本部水産課 4 名

内 容：魚類養殖場において、漁業士の指導による給餌体験を行うとともに、養殖業の作業内容や餌料コスト等、養殖経営に関する説明を行った。その後、熊本県海水養殖漁業協同組合栖本事業所へ移動し、同事業所職員の案内による高度衛生管理加工施設等の見学、マダイの神経締め及び三枚おろし等の作業体験を実施した。さらに、漁業士による職業講話を通じて、仕事内容や仕事に対する考え方などを生徒に伝えた。

また、体験教室終了後には、水産業への就職に関する意識の変化を確認するため、参加生徒を対象にアンケート調査を行った。

【成果・活用】

体験教室開催後に実施したアンケート調査※では、水産業への就職について「やや関心がある」又は「関心がある」と回答した生徒の割合は 57.1%となり、目標としていた 50%を達成することができた。このことから、本取組みにより、生徒の水産業への就職に対する関心を高めることができた。

特に、牛深地区における漁業体験教室を初めて開催したが、参加した生徒からは、「給餌作業等の機械化が進んでいることを知り、養殖業に対する印象が良い意味で変わった」という意見もあった。

また、漁業士からは、新たな担い手確保は喫緊の課題であり、来年度以降も積極的に取り組みたいとの意見があった。

今後も、漁業士会による体験教室等の取組みに対する助言・指導を継続するとともに、就業希望者を対象とした研修事業に係る地元の受け入れ態勢を整備するなど、関係機関と連携しながら、水産業の担い手確保に取り組むこととしている。

※（１）熊本県立天草拓心高校生徒を対象としたアンケート結果を記載。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 講義風景（天草拓心高校マリン校舎）



図2 出荷体験（天草拓心高校マリン校舎）



図3 給餌体験（天草拓心高校マリン校舎）



図4 養殖場見学（天草高校倉岳校）



図5 加工場見学（天草高校倉岳校）



図6 三枚おろし体験（天草高校倉岳校）

普及項目	担い手
漁業種類等	—
対象魚類	—
対象海域	有明海、八代海、天草西海

大学と連携した食育推進活動

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

天草地区漁業士会は、平成 30 年度（2018 年度）に尚絅大学・尚絅大学短期大学部と地域連携食育推進活動実施に関する協定を締結し、以来、連携した食育活動を継続している。

本協定は、両者が相互に連携及び協力し、熊本県産の水産物に対する社会の理解を深め、日本型食生活の伝承及び望ましい食生活の形成を目指すとともに、優れた食の専門家の育成、栄養士の技術向上等を図るための一助とし、併せて、熊本県産水産物の消費拡大をととして、地域社会に貢献することを目的としている。

今年度は、大学生及び保育園児を対象とした食育活動や現地見学を実施し、熊本県産水産物の理解促進と魚食普及を図った。

【普及の内容・特徴】

（1）大学キャンパスにおける「尚絅食育の日」への食材提供

実施日：令和 7 年（2025 年）6 月 19 日、11 月 6 日

実施場所：尚絅大学・尚絅大学短期大学部

概要：同大学の学食において開催された「尚絅食育の日」に合わせ、天草地区漁業士会から養殖マダイとヒトエグサを提供した。提供食材は「鯛めし」「鯛ラーメン」、「鯛めしおにぎり」及び「アオサ汁」として提供され、併せて食堂内に養殖業や天草の水産業に関する資料を展示することで、県産水産物や養殖業への理解促進を図った。

（2）養殖場及び加工場見学

実施日：令和 7 年（2025 年）10 月 18 日

実施場所：株式会社恵天養殖場、熊本県海水養殖漁業協同組合栖本加工場

参加者：尚絅大学・尚絅大学短期大学部学生 10 名、教員 3 名、
天草地区漁業士 2 名、天草広域本部水産課 1 名

概要：学生を対象に、養殖場及び加工施設の見学を実施した。養殖場では給餌体験や漁業士が養殖業に関する説明を行った。また、加工施設では、高度衛生管理や生産から加工まで一連の工程を見学してもらい、水産業への理解醸成を図った。

（3）保育園における魚食普及に係る食育イベントの実施

実施日：令和 7 年（2025 年）11 月 21 日

実施場所：カトレア保育園（熊本市）

参加者：園児 19 名、尚絅大学・尚絅大学短期大学部学生 6 名、教員 1 名、
天草地区漁業士 2 名、天草広域本部水産課 2 名

概要：保育園児を対象に、漁業士が、マダイの三枚おろしの実演、紙芝居の読み聞かせを行った。また、「くまもとの四季のさかな」を活用した魚釣り

ゲーム及び鯛めしの試食を実施した。大学生と漁業士が連携して運営することで、園児が楽しみながら熊本の魚や漁業に親しむ機会を創出した。

【成果・活用】

「尚綱食育の日」では、提供したメニューが両日ともに売り切れとなり、実施後のアンケートでも大変好評との意見が大半であった。また、養殖場及び加工場見学では、養殖される水産物の安全性や加工現場での徹底された衛生管理を学生たちに伝えることができた。

保育園での食育イベントは、熊本市内の保育園では初めて実施したが、園児や先生に大変好評であった。加えて、地元テレビ局の取材を受け、インターネット上で動画が公開されたことから、尚綱大学と天草地区漁業士会の連携協定に基づく活動のPRにも繋がった。

今後も、大学、漁業士会及び関係機関が連携し、幅広い世代を対象とした食育活動等を継続することで、熊本県水産物の認知度向上及び魚食普及の推進を図っていくこととしている。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）



図1 学食で提供された鯛ラーメン



図2 水産に関するパネル等の展示



図3 養殖場見学



図4 マダイの三枚おろしの実演

普及項目	担い手
漁業種類等	－
対象魚類	－
対象海域	八代海、天草海

担い手確保に向けた取組み

天草広域本部水産課・藤堂 美咲

【背景・目的・目標（指標）】

漁業センサスによると、令和5年（2023年）の県内漁業就業者数は4,121人であり、5年前の平成30年（2018年）の5,392人から23.6%、20年前の平成15年（2003年）の10,104人から59.2%減少しており、担い手確保・育成は本県の最重要課題となっている。

国の長期研修等を活用する場合、新規就業希望者は、ベテラン漁業者から操業技術やノウハウについて、研修を受ける必要があるが、指導を行うベテラン漁業者の確保が十分でない。また、新規漁業就業者を含む若手漁業者も、着業後の離職が発生している。

そこで、担い手の確保・育成に係る課題抽出を行うため、管内の一般漁業者を対象とした事業承継に係る意向や若手漁業者を対象とした支援ニーズを調査した。

【普及の内容・特徴】

漁業担い手の確保・育成に向けた今後の施策検討の基礎資料とするため、LoGo フォームを活用したWEB アンケートを実施した。アンケートでは、一般漁業者に対して漁業承継の意向や承継に必要な支援を、若手漁業者（49歳以下）に対しては、漁業を継続する上で必要な支援について尋ねた。その結果、一般漁業者41名、若手漁業者（49歳以下）15名から回答を得た。

【成果・活用】

一般漁業者に対し、後継者等に承継させたいか尋ねたところ、21名（51%）が承継させたいと回答した（図1）。この21名に対して後継者がいるかどうか尋ねたところ、「いる」が7名（33%）、「いるが検討中」が7人（33%）、「いない」が7名（33%）となった（図2）。一方で、「承継させたくない」と回答した18名と「承継させたいが後継者がいない」と回答した7名を合わせると25名（61%）となった。

また、どのような支援があれば承継させたいか、と尋ねたところ、「漁船漁具購入費の支援」という回答が23名（56%）と最も多かった（図3）。図4に示すとおり、漁業資材価格は高騰しており、特に水中灯の単価は、約1.9倍に上昇していた。これらの結果から、漁具の高騰が漁業者の負担となっており、事業承継を妨げる要因の一つとなっている可能性が示唆された。

若手漁業者15名に対し、漁業を行う上で必要な支援を尋ねたところ、漁船や漁具の修繕費や燃油費の補助など、「現在行っている主たる漁業を維持するための支援」と回答した者が9名（60%）と最も多かった（図5）。これまで、若手漁業者への支援策としては、

主たる漁業に加え、海藻類養殖等により副収入を得るような複合経営化の支援も想定していたが、今回の調査では、現在行っている主たる漁業を支援して欲しいという回答が過半数であった。その理由について、詳細に尋ねたところ、「他の新しい漁業を開始するには、支援があったとしても資金が必要となる。市の給付金支援がなくなれば生活出来ないレベルなのに、そのような余裕はない。」、「主たる漁業である刺網漁業でやっていくと決めているため、軌道に乗らない限り、他の漁業に手は出さない。」といった回答であった。また、若手漁業者は、収入補填のため、主たる漁業の操業後に他の漁業者が行う漁業の乗組員として従事している実態が明らかとなった。

若手漁業者は、経済的・精神的・時間的にも新たな漁業に取り組む余力がないことから、主たる漁業を安定して継続できるようにすることが重要であると考えられた。

なお、アンケート結果は、関係機関にも共有し、担い手関連事業の支援メニューの拡充に寄与した。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）

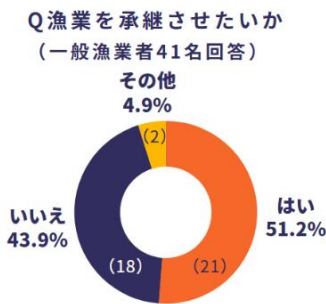


図 1 漁業を承継させたいか

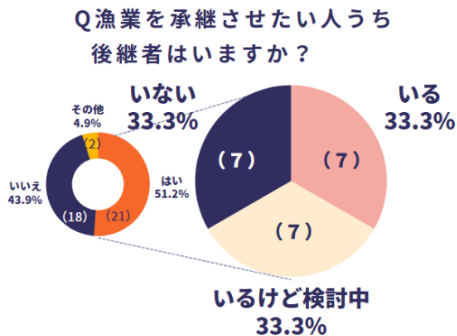


図 2 後継者の有無

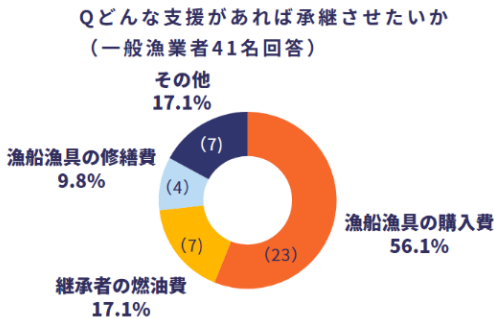


図 3 承継させるために必要な支援

資材	R5. 4単価	R7. 6単価	上昇率
水中灯	¥8, 800	¥16, 500	188%
Kロープ	¥1, 840	¥2, 200	120%
修繕ナイロン	¥1, 500	¥1, 980	130%

天草漁協生深支所より情報提供

図 4 漁業資材の単価比較（きびなご刺し網）

Q 漁業をする上で支援してほしいこと

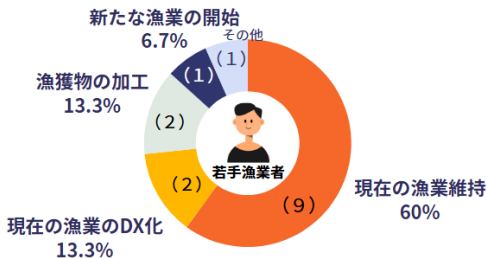


図 5 若手漁業者が支援して欲しいこと

普及項目	漁場環境
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	八代海

有害赤潮に関する取組み（赤潮勉強会の開催）

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭・中根 基行

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、有害赤潮による魚類養殖業への被害が継続して発生しており、被害軽減に向けた関係者間の情報共有及び連携強化が重要となっている。このため、令和 7 年度（2025 年度）は、赤潮対策に係る現状や課題を共有し、被害軽減に向けた取組みを推進することを目的に、魚類養殖業者、漁業協同組合、研究機関及び行政等の産学官の関係者が一堂に会する赤潮対策勉強会を開催することとした。

また、赤潮発生時における効率的な駆除剤散布及び赤潮モニタリングの実施を支援するため、各地区の駆除剤散布に立会い、現地での助言及び指導を行った。

【普及の内容・特徴】

令和 7 年（2025 年）5 月から 11 月にかけて、計 3 回の赤潮対策勉強会を開催した。各回には、魚類養殖業者 3 名から 7 名を含む約 20 名が出席し、赤潮生物の生態、発生状況、被害防止対策及び駆除剤散布に係る知見等について情報共有を行った。

また、4 月に牛深地区で発生したヘテロシグマ アカシオ、7 月に楠浦地区で発生したカレニア ミキモトイ、8 月から 9 月にかけて楠浦、樋島、嵐口及び大道地区で発生したシャットネラ属の有害赤潮に対し、当課の普及員が駆除剤散布に立会った。

【成果・活用】

勉強会の開催により、関係者間で赤潮生物の発生予察や赤潮対策に関する現状、課題及び取組みに関する共通認識を図った。特に、赤潮駆除に関する知見や現場での対応方法を周知することで、魚類養殖業者の赤潮対策に対する理解促進に繋がった。

また、当課からは、新たな赤潮駆除剤の散布方法に関する知見を紹介するなど、養殖業者が赤潮の発生メカニズム、被害防止策及び支援事業等を含めた総合的な知識を習得する機会となった。

駆除剤散布の立会では、養殖業者やその従業員に対し、顕微鏡やピペットの操作方法、赤潮駆除剤の散布方法の指導等を行い、駆除剤散布や有害赤潮モニタリングに関する技術や知識向上に繋がった。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）



図 1 赤潮対策勉強会（第 1 回）



図 2 赤潮対策勉強会（第 3 回）



図 3 顕微鏡操作の指導



図 4 駆除剤の効果に関する検討



図 5 駆除剤散布の状況

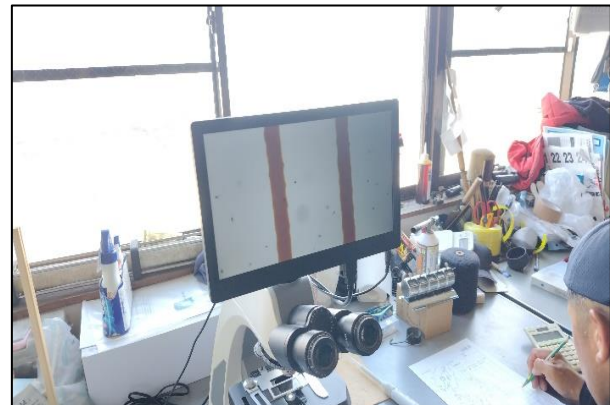


図 6 駆除剤散布後の確認

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	魚類
対象海域	八代海

水産用医薬品の使用に係る巡回指導

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭 中根 基行

【背景・目的・目標（指標）】

水産用医薬品の使用について、薬事関係法令により①未承認医薬品の使用禁止、②対象魚種や用法用量、③使用禁止期間及び休薬期間等の使用基準が設けられている。

養殖現場において、水産用医薬品がこれらの基準に従い適正に使用され、記録されているか確認するとともに、そうでない場合は適正に使用するよう指導することで、養殖水産物に対する安全、安心の確保や本県水産養殖業の維持、発展を目的とした。

年度内に4業者を巡回することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

（１）巡回指導の日時、場所、対象者数は以下のとおり。

- ① 令和7年（2025年）7月11日、大道漁協（1業者）、栖本町漁協（1業者）
- ② 令和7年（2025年）7月16日、天草漁協宮野河内支所（3業者）
- ③ 令和7年（2025年）7月29日、天草漁協松島支所（1業者）

（２）共同実施機関 天草家畜保健衛生所

（３）指導の方法

4地区の5業者に対して、養殖水産動物の種類、尾数、生簀の数、発生した魚病や水産用医薬品使用状況などを確認するとともに、適正使用を指導した。

併せて、薬品の保管状況を確認し、薬品倉庫の施錠、個数管理の方法、古い医薬品が残っている場合はその処分について指導した。

【成果・活用】

巡回指導により、各養殖業者とも水産用医薬品を適正に使用していることを確認した。また、各業者は基本的に使用の都度必要量の医薬品を購入していた。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）は達成できた（100%）



図 1 A 社聞き取り状況



図 2 水産用医薬品の保管状況



図 3 B 社聞き取り状況



図 4 水産用医薬品の保管状況

普及項目	増殖
漁業種類等	—
対象魚類	アマモ
対象海域	有明海、天草海

藻場造成活動支援（アマモ場造成）

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭 中根 基行

【背景・目的・目標（指標）】

本取組みは、有明海再生加速化対策交付金を活用し、近年の高水温等により衰退した天草管内の藻場について、10年間で集中的な再生を図ることを目的として実施した。

実施にあたっては、天草漁業協同組合（上天草総合支所、本渡支所、佐伊津出張所）及び有明町漁業協同組合と連携し、アマモ、ヒジキ、ワカメ等を対象とした藻場造成活動への技術的指導を行うとともに、現場への立会により事業の適正かつ着実な実施を支援した。

【普及の内容・特徴】

各漁業協同組合に対して、令和7年（2025年）5月から7月にかけて、アマモのロープ式増殖やヒジキのスポアバック設置に係る設置高の調整、アマモ花枝の麻袋作成等に係る実技指導を行った。また、11月にはワカメ種糸設置方法、12月にはアマモの育苗管理について実技指導を行った。

令和8年（2026年）2月には、有明町漁業協同組合に対して、寒天粘土を用いたアマモ播種について技術指導を実施した。なお、アマモの育苗及び紙粘土ブロックを用いた播種に使用した種子は、普及指導員が8月に採取し冷蔵管理したものを使用した。

【成果・活用】

令和7年（2025年）5月から令和8年（2026年）2月までに、計6回の現地指導及び立会を行い、延べ56人の漁業者や漁協職員に対して技術指導を行った。

その結果、アマモ（3手法）、ヒジキ及びワカメについて、各地先の漁業者の技術に応じた造成技術の習得が図られた。

今後は、造成した藻場のモニタリングにより、造成効果を把握し、藻場の維持・拡大に繋げていく。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）



図1 アマモ花枝ロープ設置 (6月: 天草漁業協同組合本渡支所)



図2 ヒジキスポアバック設置 (6月: 天草漁業協同組合佐伊津出張所)



図3 ワカメ種系ロープ設置 (11月: 天草漁業協同組合上天草総合支所)

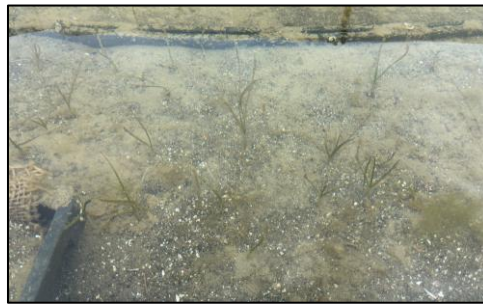


図4 アマモ育苗作業 (12月: 天草漁業協同組合本渡支所)



図5 アマモ寒天粘土播種作業 (2月: 有明町漁業協同組合)

普及項目	増殖
漁業種類等	—
対象魚類	アマモ
対象海域	天草有明海、天草海

藻場造成活動支援（環境学習）

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

アマモ場は、「海のゆりかご」とも呼ばれ、魚や甲殻類、イカなどの生息場所や産卵場所として重要な役割を果たしている。また、水質浄化、二酸化炭素の固定、底質の安定化など様々な機能があり、天草管内では、各地でアマモ場造成活動が行われている。

そこで、当課では、水産資源の涵養を目的として、高校生を対象とした藻場造成活動への技術的指導及び環境教育に係る講義を行った。

【普及の内容・特徴】

令和7年（2025年）5月28日に、熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎栽培コースの3年生を対象に、アマモの役割や重要性に関する講義を行った。その後、生徒たちは普及指導員や教諭の指導の下、約150本のアマモの移植作業を実施した。併せて、次年度の種苗確保を目的に花枝の採取を行った。

また、11月5日には、普及指導員及び教諭の指導の下、アマモの播種作業を実施した。

【成果・活用】

本取組みに参加した生徒3名が、天草市が主催した赤崎小学校5年生向けのアマモ学習会において講師として参加し、本取組みで習得したアマモの役割や重要性に関する知識を児童に対して分かりやすく説明した。

また、赤崎漁港で行われたアマモ場造成活動では、生徒が児童に播種方法を指導しながら作業を行った。児童からは「講義の内容を理解できた」との声が聞かれるなど、高校生が学んだ知識を地域の児童へ伝えることで、学びが地域へ波及する取組みとなった。また、高校生が「学ぶ側」から「教える側」になることで、アマモ場の役割や保全の重要性について理解を深めるとともに、地域の環境保全活動を担う人材の育成にも繋がった。

さらに、本取組みは、地元テレビ局及び新聞社に取り上げられたことで、アマモ場造成活動や藻場保全の重要性を広く県民に発信する機会となった。

今後も、学校や地域と連携し、学習した生徒が次の世代へ知識や経験を伝える仕組みを取り入れることで、地域主体の藻場保全活動の継続・拡大につなげていく。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）



図1 アマモに関する講義



図2 移植方法の説明



図3 アマモの移植



図4 花枝の採取



図5 小学生向けのアマモ学習会



図6 花枝入り麻袋の作成

普及項目	流通、地域振興
漁業種類等	—
対象魚類	—
対象海域	有明海、八代海、天草海

稼げる水産業に向けた取組み

天草広域本部水産課・藤堂 美咲

【背景・目的・目標（指標）】

稼げる水産業の実現に向けては、地元市町と連携し、漁業者や漁協による 6 次産業化の取組みを推進するとともに、流通業や加工業等の民間企業と協力し、水産物の販売促進及び消費拡大に繋げることが重要である。

天草漁業協同組合（以下「天草漁協」という。）では、地域と連携したイベントの開催を通じて、天草産水産物の PR 及び販売事業の強化による漁家所得向上に取り組んでいる。

そこで、天草産水産物の更なる認知度向上及び消費拡大に繋げることを目的に、関係機関と連携して、天草漁協が実施する 2 つのイベントの開催支援を行った。

【普及の内容・特徴】

（１）あまくさエビリンピックの開催支援

実施日：令和 7 年（2025 年）10 月 4 日

場 所：宮津海遊公園（上天草市大矢野町）

運営者：天草漁協職員、上天草市役所職員、天草広域本部水産課職員

概 要：天草漁協が開催したエビリンピック（宮津湾の一部を仕切り、その内側にクルマエビを放流して一般客にクルマエビのつかみ取りをさせ、その量を競う大会）について、天草漁協や上天草市と連携し、開催に向けた事前打ち合わせや当日の運営補助を行った。

今回の応募者数は 2,195 名であり、当日は抽選で選ばれた 794 名（大人 593 名、子供 201 名）が出場した。平成 27 年（2015 年）の開始当時の応募者数 936 名に比べて 2.35 倍に増加しており、地域に定着した人気イベントとなっている。また、応募者のうち 267 名、約 12%は県外からの応募であり、参加者の年齢層も 5 歳から 80 代までと幅広かった。会場では、クルマエビのつかみ取りに加え、各支所によるクルマエビの素揚げや釣り、海鮮バーベキューの販売も行われ、上天草市で盛んに養殖されているクルマエビや天草漁協が取り扱う水産物を広く PR する機会となった。

（２）天草おさかな祭りの開催支援

実施日：令和 8 年（2026 年）2 月 1 日

場 所：本渡地方卸売市場周辺（天草市港町）

運営者：天草漁協職員、天草市役所職員、天草広域本部水産課職員、天草地区漁業士会会員

概 要：天草漁協が開催した天草おさかな祭り（天草漁協が本渡地方卸売市場の感謝祭として実施しているイベント）について、天草漁協や天草市と連携し、開催に向けた事前打ち合わせや当日の運営補助を行った。

当日は、海鮮バーベキューや魚の詰め放題、ブリの解体ショー、おさかなク

イズ、模擬セリ、くまモンの来場等、多様な催しを実施され、推定来場者は3,000名となった。また、今回は天草地区漁業士会も出展し、「くまもとの四季のさかな」を題材とした釣りゲームを実施した。子供をはじめとする来場者に対し、楽しみながら天草の水産物に触れてもらうことで、天草水産物のPR及び魚食普及につながった。

【成果・活用】

各イベント情報を掲載した天草漁協ホームページのトップページアクセス数は、令和5年度（2023年度）が141,114件、令和6年度（2024年度）が173,744件、令和7年度（2025年度）が187,781件と年々増加しており、これらのイベント開催支援を通じて、天草水産物の魅力を県内外へ発信することができた。

今後も、漁協・関係市町・漁業士等が連携して、天草水産物に係るPRを推進することとしている。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）



図1 仕切り網内に駆け込む参加者
（あまくさエビリンピックの様子）



図2 クルマエビ釣り
（あまくさエビリンピックの様子）



図3 天草地区漁業士会のブース
（天草おさかな祭りの様子）



図4 魚（アサリ）のつかみ取り
（天草おさかな祭りの様子）

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	カキ
対象海域	天草有明海、八代海

カキ類養殖指導

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

クマモト・オイスター（標準和名：シカメガキ）の養殖は、夏季の高水温期の大量へい死が大きな問題となっていた。しかし、40℃の温水に1時間漬ける温湯処理により、貝に高水温への耐性を獲得させる技術を平成29年（2017年）に県が開発し、養殖業者に技術の普及について継続的に指導している。

そこで、養殖貝の生残率向上を目的に、養殖業者に対する温湯処理の技術指導を実施した。また、今年度は、5月から10月にかけて、月1回の頻度で指導することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

天草市新和町大多尾地先（図1）でクマモト・オイスターを試験養殖している漁業者に対し、夏季の高水温期の大量へい死対策として、5月から10月にかけて温湯処理の技術指導を行った（図2）。

なお、本漁場は、令和6年度（2024年度）の生残率が10%を下回ったことから、今年度は①「急激な温度変化によるストレスを避けるため、現場海水温が25℃に到達しない時期については、処理温度を37～38℃に設定」するとともに、②「クマモト・オイスターへの物理的なストレスを軽減するため、温湯処理の間隔を3週間から1ヶ月に変更」した。

また、クマモト・オイスターの生理状態を把握するため、月1回各5個体をサンプリングし、成熟状況を確認した（図3）。

【成果・活用】

5月から10月にかけて、月1回（合計6回）温湯処理技術の指導を行った。処理温度を変更したものの、生残率は開始当初の約60%から徐々に減少し、最終的には約3%となり、昨年度に引き続き10%を下回る結果となった。

また、成熟状況を確認したところ、5月は成熟個体が見られなかったが、6月以降はサンプリングしたほとんどの個体が成熟しており、生残率低下の一因として断続的な成熟による衰弱が考えられた。以上の結果から、本漁場では、温湯処理だけでは十分なへい死抑制効果を得ることは難しい可能性が示唆された。

今後は、温湯処理に加え、マガキ養殖で実施されている夏場の干出等の管理手法との組み合わせを検討するとともに、比較的生残率が高かった過去の飼育データとの比較や分析を行い、よりへい死抑制効果が高い効果的な管理方法の検討を行うこととしている。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

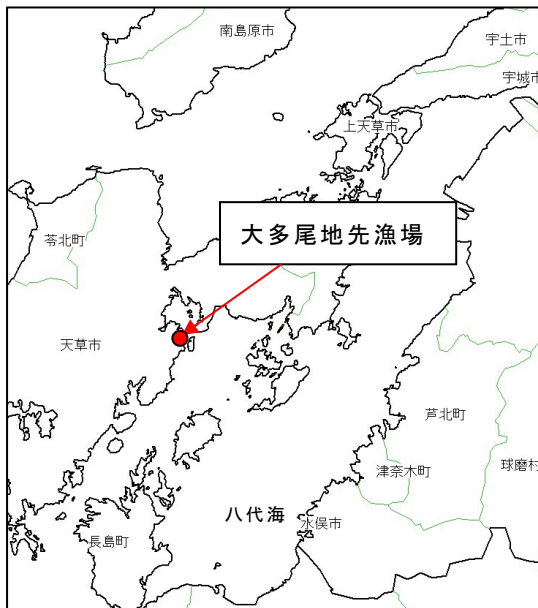


図 1 養殖場位置図



図 2 温湯処理状況



図 3 成熟状況の確認

普及項目	担い手
漁業種類等	養殖業、漁船漁業
対象魚類	-
対象海域	有明海、八代海、天草海

熊本県立天草拓心高校マリン校舎と連携した担い手確保・育成の取組み 水産研究センター企画情報室・多治見 誠亮・篠崎 貴史

【背景・目的・目標（指標）】

本県の漁業就業者数は全国同様に減少傾向が続いており、令和5年（2023年）は平成30年（2018年）比で23.6%減の約4,000人まで減少している。また、就業者のうち60歳以上の割合が57.8%に達し、増加傾向である（出典：2023年漁業センサスデータ）。この状況を踏まえ、本県では、漁業就業前から就業後までを一体的に支援するワンストップ体制を構築し、担い手の確保・育成に取り組んでいる。

一方、持続的に担い手の確保を図るためには、将来の水産業を支える次世代人材の発掘が不可欠である。このため、県内唯一の水産系高校である熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎（以下「水産高校」という。）と連携し、高校段階から、水産業の魅力に触れる機会を創出するため、同校生徒に対する現場実習等を行うこととした。なお、実習は計7回以上実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

表1のとおり、令和7年（2025年）7月から令和8年（2026年）2月にかけて、現場実習等の取組みを計7回実施した。また、実習等の実施にあたっては、生徒が水産業を将来の選択肢として考えてもらうための「きっかけ」を提供するため、幅広く水産業の魅力に触れる機会を創出できる取組みを選定した。

【成果・活用】

実習に参加した生徒からは、「天草の基幹産業である養殖業や天草ならではの漁船漁業への理解が深まった」、「水産食品加工業が天草の重要産業であることを再認識した」、「ノリには様々な等級があることを知った」等の声があった。

また、実習後のアンケート※では、参加した6割の生徒が水産業に対するイメージが変わった、9割の生徒が職業選択の一つとして水産業界を意識するようになった、という結果であり、水産業の魅力発信に繋げることができた。

※スマート水産業に関する現地実習（漁船漁業）後に実施したアンケートによる。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

表 1 水産高校と連携した現場実習等について

実習名	日時	参加者	実施場所	内容
スマート水産業に関する現地実習（養殖業）	10月20日（月） 10時00分～ 15時00分	栽培コース 14名	天草市牛深町	・魚類養殖業の仕事内容、スマート機器（自動給餌機）の活用について学習。（図1）
スマート水産業に関する現地実習（漁船漁業）	11月4日（火） 13時00分～ 15時30分	海洋航海コース30名	天草市牛深町	・手繰網漁業等の作業方法、スマート機器（プロッター等）の活用について学習。
水産加工場見学の実施（第1回）	10月15日（水） 9時00分～ 16時00分	食品コース 8名	天草市栖本町、宇土市笹原町	・養殖魚のフィレ加工工場における加工作業や高度衛生管理（HACCP）、輸出の状況等について学習。（図2） ・海藻加工場における製造工程、品質管理について学習。
水産加工場見学の実施（第2回）	2月25日（水） 10時00分～ 15時00分	食品コース 4名	宇土市住吉町、熊本市西区、同市東区	・乾ノリ製造工場の見学 ・ノリ入札会場見学 ・ノリ加工品工場見学
くまもと食の名人等と連携した調理実習の開催	12月5日（金） 9時00分～ 12時30分	食品コース 8名	食調理実習室	・プロの料理人から、県産水産物の捌き方や調理方法等について学習。
水産高校のPR	①7月12日（土） 及び15日（月） ②7月24日（木）	-	-	・テレビ放送や新聞紙面を活用して、水産高校の実習施設や教育内容のPR。
大型定置網漁業見学の実施	10月21日（水）	海洋航海コース12名	天草市天草町	・荒天により中止。
水産研究センターオープンラボ実習等の実施	6月16日（月） 10時00分～ 14時00分	食品コース 8名	上天草市大矢野町	・生徒が開発した未利用魚を活用したカレーの細菌検査等の実習、施設見学。



図1 スマート水産業に関する現地実習（養殖業）

図2 水産加工場見学の実施（天草市栖本町）

普及項目	担い手、漁場環境、養殖
漁業種類等	－
対象魚類	－
対象海域	有明海、八代海、天草海

漁業者セミナーの開催

水産研究センター企画情報室・多治見 誠亮・梅本 敬人

【背景・目的・目標（指標）】

有害赤潮プランクトンによる漁業被害、海域環境の変化、水産資源の減少、魚価の低迷、資材や燃油の高騰など、本県の水産業を取り巻く状況が変化中、漁業者の技術やニーズに合わせた研修の実施が必要である。

また、本県の漁業就業者数は減少しており、新規就業者や国の長期研修支援事業を利用している研修生の漁業への定着を図る必要がある。そこで、漁業者や漁業関係者等に対し、受講者の経験や技術レベル等に応じた漁業者セミナーを行うことを目的とした。また、漁業者セミナーは、計4回以上実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

令和7年度（2025年度）の漁業者セミナーの構成は、「水産業入門講座」、「長期研修サポートコース」、「養殖業初任者コース」、「漁業士養成コース」及び「浜の勉強会」とした。

1 「水産業入門講座」

海洋環境、漁業・養殖技術、水産関係制度・法規等10科目の中から3科目程度を受講者が選択し、基本的な知識を修得するセミナー。

2 「長期研修サポートコース」

新規就業者や国の長期研修事業を利用している研修生同士の交流や意見交換を通じた心理的不安の軽減、研修や就業に対する意欲の向上及び技術の効率化につなげるセミナー。

3 「養殖業初任者コース」

新たに魚類養殖業に従事する従業員等に対して、養殖業の安定的な経営のために、赤潮原因プランクトンや魚病に関する基礎的な知識を習得することを目的とした。

4 「漁業士養成コース」

漁業士認定候補者が①基礎講座、②リーダー養成講座、③専門講座の3講座を履修し、将来の中核漁業者となるための人材を育成するセミナー。

5 「浜の勉強会」

地域における、緊急性又は重要性の高いテーマについて、研究、行政、普及の担当者が現地で検討会や学習会を行い、漁業者等の知識・技術の向上につなげるセミナー。

【成果・活用】

漁業者・漁協職員・市町職員等を対象とした漁業者セミナーを計10回実施した。特に「養殖業初任者コース」による先輩養殖業者からの講話や「長期研修サポートコース」による新規就業者同士の交流を通じて、就業初期の課題や不安軽減に繋がる機会を提供した（図1、2）。また、受講者のニーズや課題を把握することで、今後の研修内容の充

実や新規就業者への定着支援に繋がる知見を蓄積することができた。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）

表1 漁業者セミナーの開催状況

コース名	講座名	実施状況	受講者
水産業入門講座		4月18日 水産一般、海洋環境	市職員 2名
		10月1日、2日、3日、6日 水産一般、つくり育て管理する漁業、漁業・養殖技術	水産関連団体職員 4名
		10月23日 水産一般、海洋環境、水産関係制度・法規	漁船漁業者 1名
長期研修サポート コース		10月10日 グループディスカッション、講師講話	長期研修生 7名 市職員 4名
養殖業初任者コース		5月8日 赤潮原因プランクトン、魚病に関する基礎、先輩養殖業者の講話	漁業者 3名 漁協職員 2名
漁業士 養成 コース	基礎講座	10月15日 県広域本部管内のノリ養殖業者を対象に実施 12月15日 天草広域本部管内の漁船漁業者を対象に実施	県北広域本部管内 ノリ養殖業者 2名 天草広域本部管内 漁船漁業者 1名
	リーダー 養成講座		
	専門講座		
浜の勉強会		テーマ：「赤潮被害軽減及び防除対策について」 実施日：5月13日 実施地区：上天草市龍ヶ岳町大道地区、天草市御所浦地区 内 容： ・赤潮対策プロジェクトチームについて ・令和7年度（2025年度）赤潮対策及び補助事業について、 ・令和6年度（2024年度）ドローンによる赤潮モニタリングについて	魚類養殖業者 8名 漁協職員 4名 市職員 3名
		テーマ：「今年の赤潮発生状況及び赤潮対策に係る試験の状況等について」 実施日：①10月28日、②11月6日 実施地区：①天草市楠浦地区 ②上天草市龍ヶ岳町大道・天草市御所浦地区 内 容： ・今年の有害赤潮プランクトンの発生状況について ・赤潮対策に係る試験の進捗報告について	地区① 魚類養殖業者 3名 漁協職員 4名 市職員 1名 地区② 魚類養殖業者 4名 漁協職員 3名 市職員 3名



図1 長期研修サポートコースの実施



図2 養殖魚初任者コースの実施